

本質的な英語を勉強  
英文工学-Lite 版-



*from bell*



## ■ はじめに

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

## ■ 目次

■ はじめに.....	2
■ on のコアミーニング.....	4
【on】 .....	5
【ピタッ!とくっ付いている】 .....	7
■ to と for のコアミーニング.....	15
【to】 .....	17
【for】 .....	18
Example give .....	20
Example buy.....	21
Example look.....	23
■ 過去形の本当の意味とは?.....	24
ズバリ過去形とは? .....	26
距離感.....	27
仮定法.....	30
■ 英語を話す時に必要なたった一つの考え方.....	32
シンプルな結論をドン! .....	34
例題.....	36
応用問題.....	39
応用問題②.....	43
■ 最後に.....	46

## ■ on のコアミーニング

こんにちは、ベルです。

このマニュアルは以前まで有料で販売していたコンテンツを無料版に一部改変したものです。

無料と言っても手を抜かず、価値を落とさずに、いいところ取りをしてまとめてあります。

だから、声に出して読むくらい熱量をもって勉強をして頂ければと思います。

今回お伝えしたいことは、英語のコアな部分つまり、『コアミーニング』を紹介しますね。

コアミーニングとは、  
ただ一つのことを知っているだけで、  
広く応用が出来る根底（コア）の意味のことです。

用法・用例といったように、あれもこれもと沢山覚えて英語学習を進めることは、僕は無駄だと思っているので本質的な部分のみを紹介していきます。

では、さっそくいきましょう！

## 【on】

この章では、【on】の紹介です。

onの意味を『～の上に』と習ったことはありませんか？

僕も中学の時に、onの意味は、『～の上に』って習いました。  
先生が教えてくれたので何の疑いなく、そう覚えていました。

しかし、その後「on the wall」

「壁に」

という表現が出てきたときに、

「おかしい！」と思わずにいらませんでした。

だって、”横”じゃなくて壁の”上”じゃん！

と思ったからです。

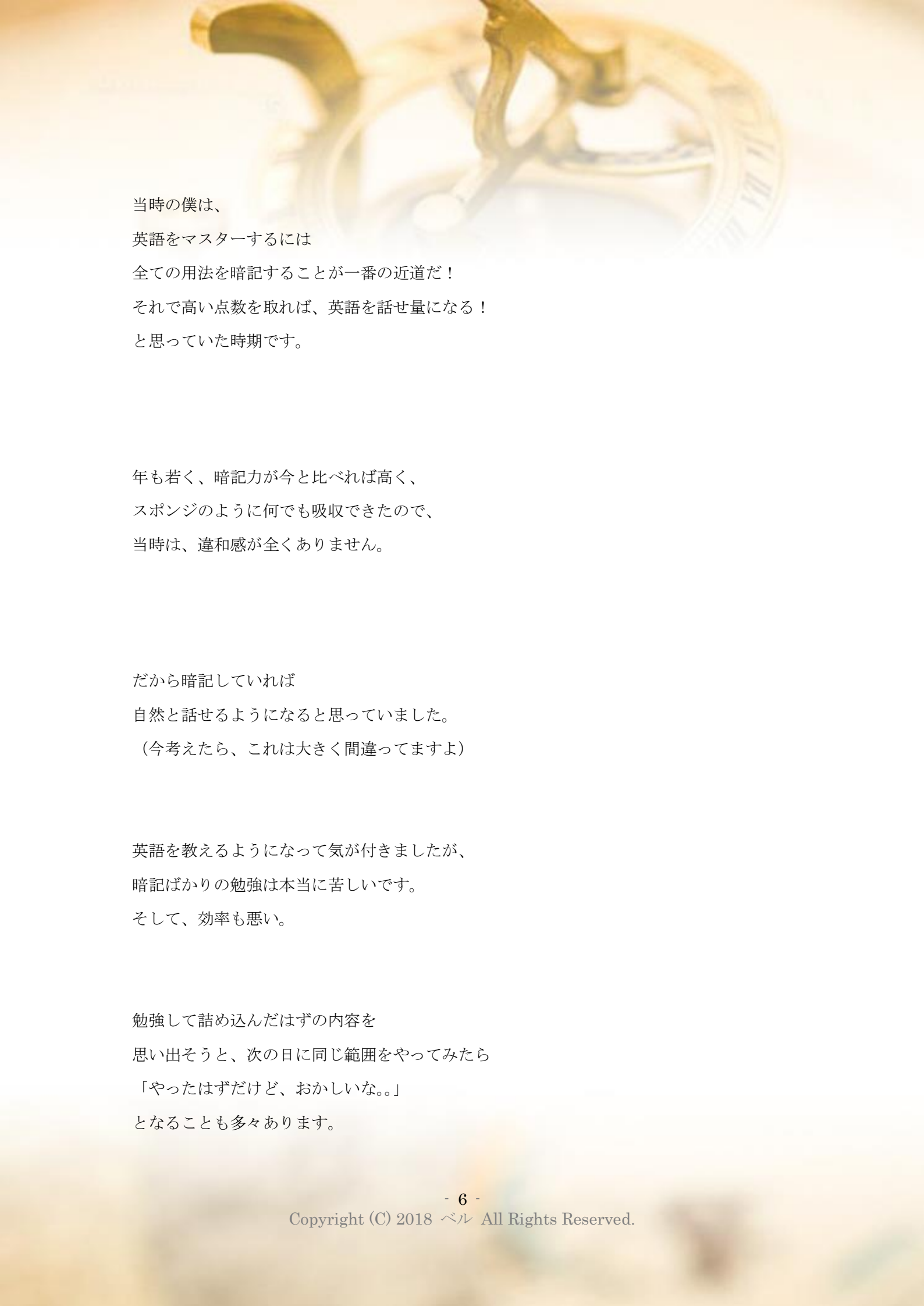
壁の横って意味なら next や by でもいいのでは??

と思い、先生に質問してみることに。

「onが付いてるから「壁の"上に"」じゃないの？」

って質問したら、

「これは、こういう表現だから覚えなさい。」と言われました。




当時の僕は、  
英語をマスターするには  
全ての用法を暗記することが一番の近道だ！  
それで高い点数を取れば、英語を話せ量になる！  
と思っていた時期です。

年も若く、暗記力が今と比べれば高く、  
スポンジのように何でも吸収できたので、  
当時は、違和感が全くありません。

だから暗記していれば  
自然と話せるようになると思っていました。  
(今考えたら、これは大きく間違ってますよ)

英語を教えるようになって気が付きましたが、  
暗記ばかりの勉強は本当に苦しいです。  
そして、効率も悪い。

勉強して詰め込んだはずの内容を  
思い出そうと、次の日に同じ範囲をやってみたら  
「やったはずだけど、おかしいな。。」  
となることも多々あります。



大人になったら、暗記だけでは、  
脳の構造上、苦しいものがあります。

だからこそ、今回のコアミーニングで  
少ない暗記量で、多くの学びを得てほしいと思います！

on は「上に」の他に以下のものがあります。

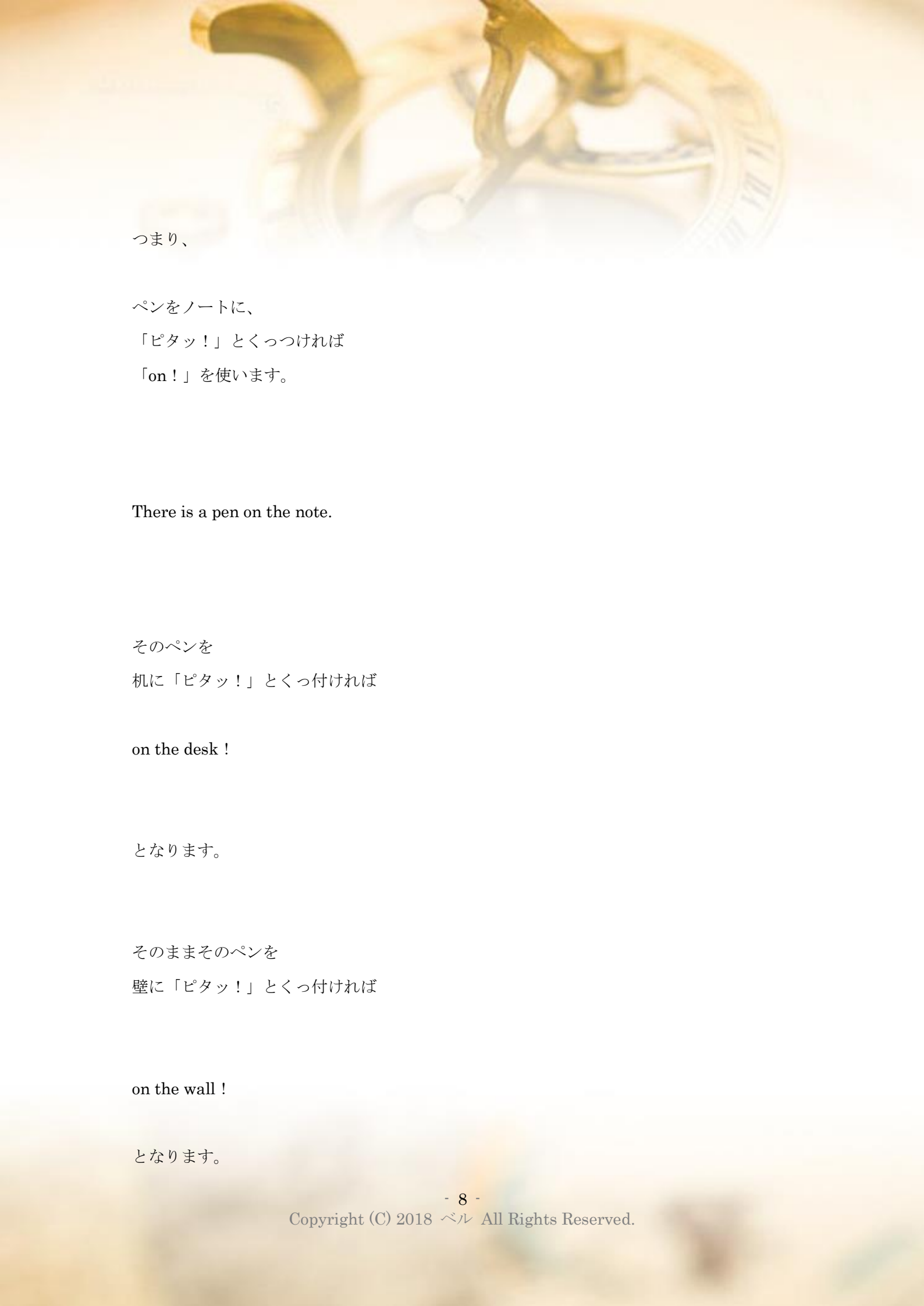
- ・ 曜日の時は on
- ・ depend on～（～に頼る）
- ・ on the ceiling（天井に） 等など

これらのように多くの意味や  
使われどころがありますが、  
たった一つの意味だけで説明がつきます。

その意味がコアミーニングと呼ばれているもので、  
on のコアミーニングは

**【ピタッ！とくっ付いている】**

という「ピタッ」という意味なのです。



つまり、

ペンをノートに、

「ピタッ！」とくっつければ

「on！」を使います。

**There is a pen on the note.**

そのペンを

机に「ピタッ！」とくっ付けば

**on the desk !**

となります。

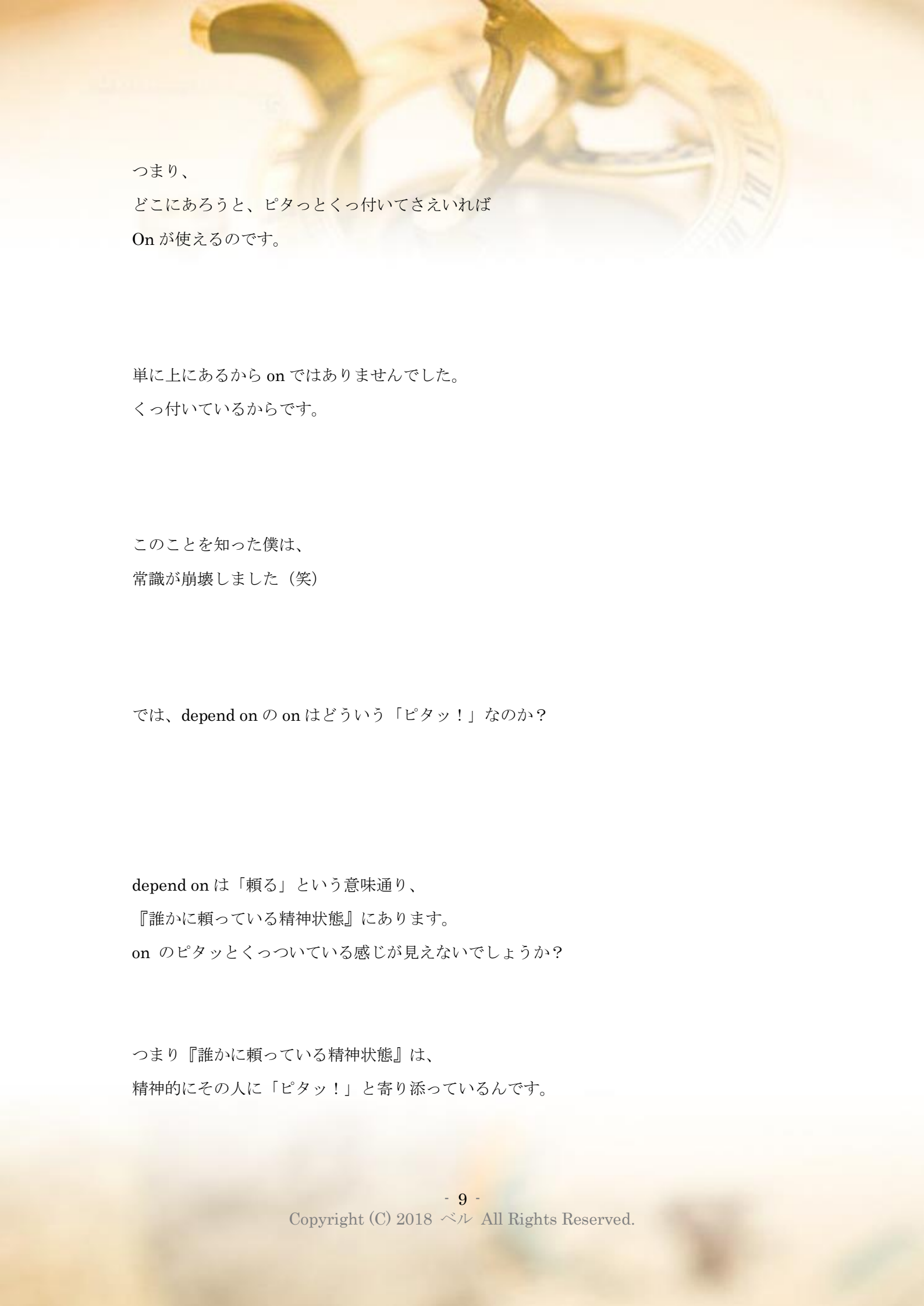
そのままそのペンを

壁に「ピタッ！」とくっ付けば

**on the wall !**

となります。





つまり、  
どこにあるかと、ピタっとくっ付いてさえいれば  
On が使えるのです。

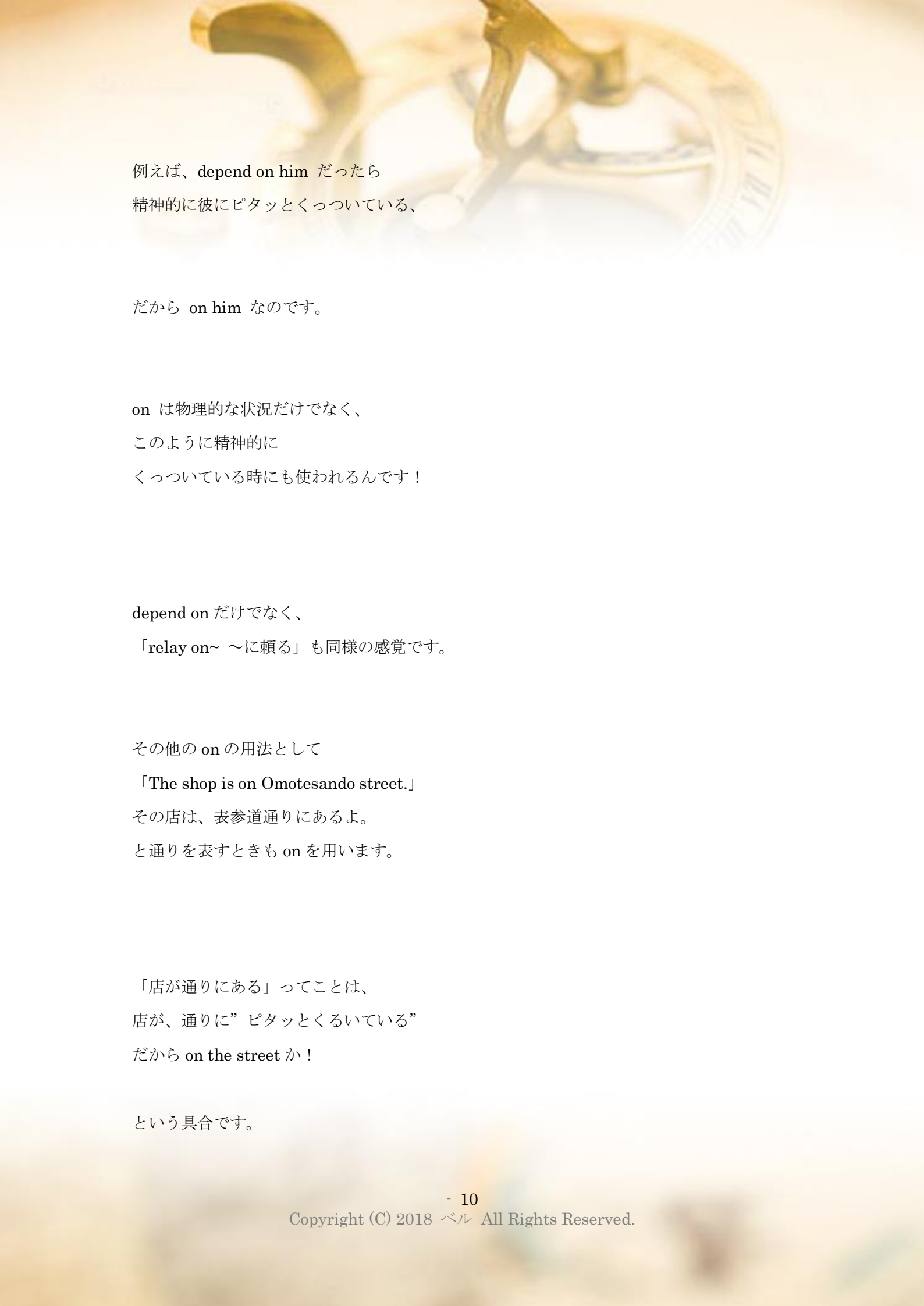
単に上にあるから on ではありませんでした。  
くっ付いているからです。

このことを知った僕は、  
常識が崩壊しました（笑）

では、depend on の on はどういう「ピタッ！」なのか？

depend on は「頼る」という意味通り、  
『誰かに頼っている精神状態』にあります。  
on のピタッとくっついている感じが見えないでしょうか？

つまり『誰かに頼っている精神状態』は、  
精神的にその人に「ピタッ！」と寄り添っているんです。



例えば、**depend on him** だったら  
精神的に彼にピタッとくっついている、

だから **on him** なのです。

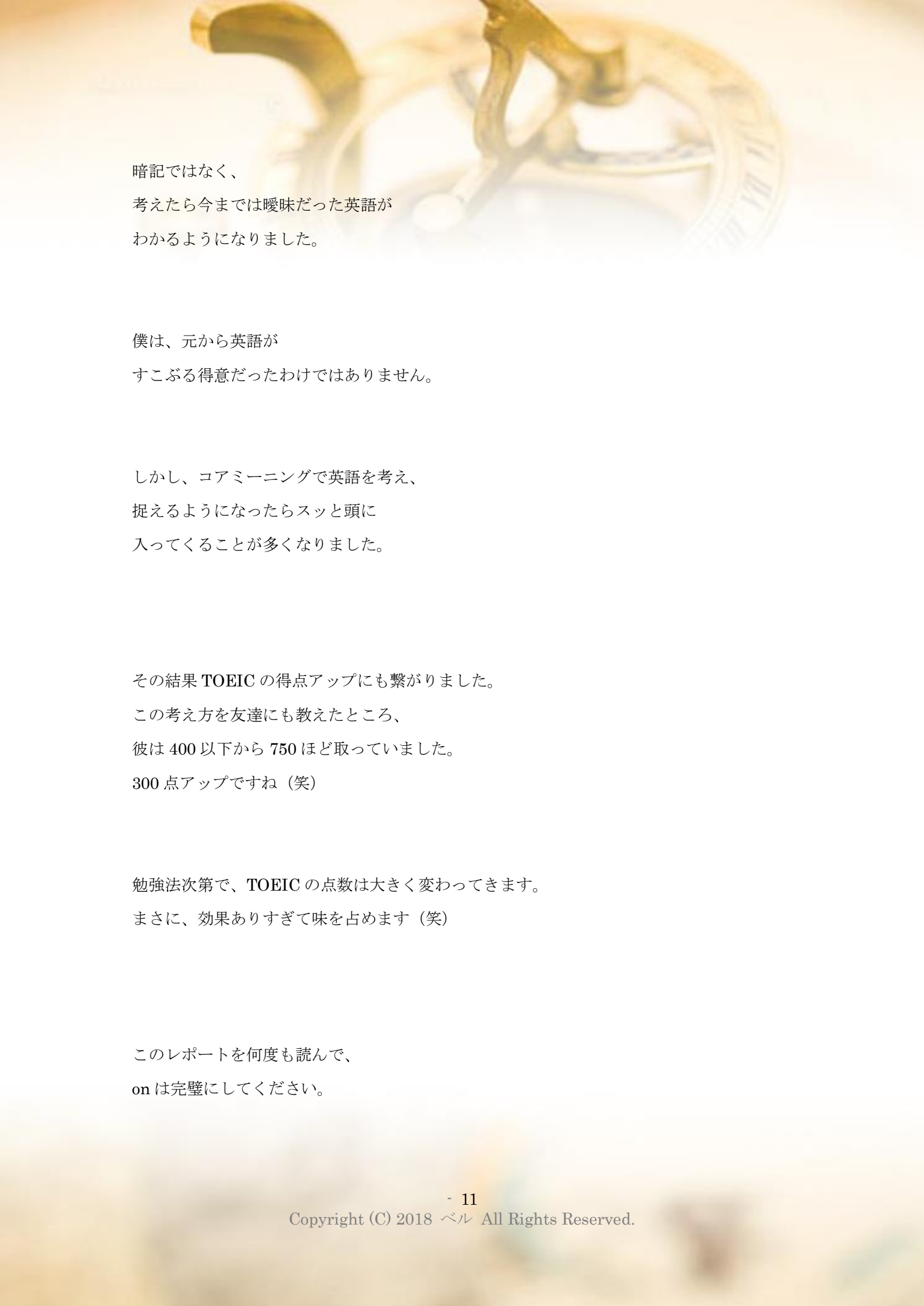
**on** は物理的な状況だけでなく、  
このように精神的に  
くっついている時にも使われるんです！

**depend on** だけでなく、  
「**relay on** ~ ~に頼る」も同様の感覚です。

その他の **on** の用法として  
「**The shop is on Omotesando street.**」  
その店は、表参道通りにあるよ。  
と通りを表すときも **on** を用います。

「店が通りにある」ってことは、  
店が、通りに”ピタッとくっついている”  
だから **on the street** か！

という具合です。



暗記ではなく、  
考えたら今までは曖昧だった英語が  
わかるようになりました。

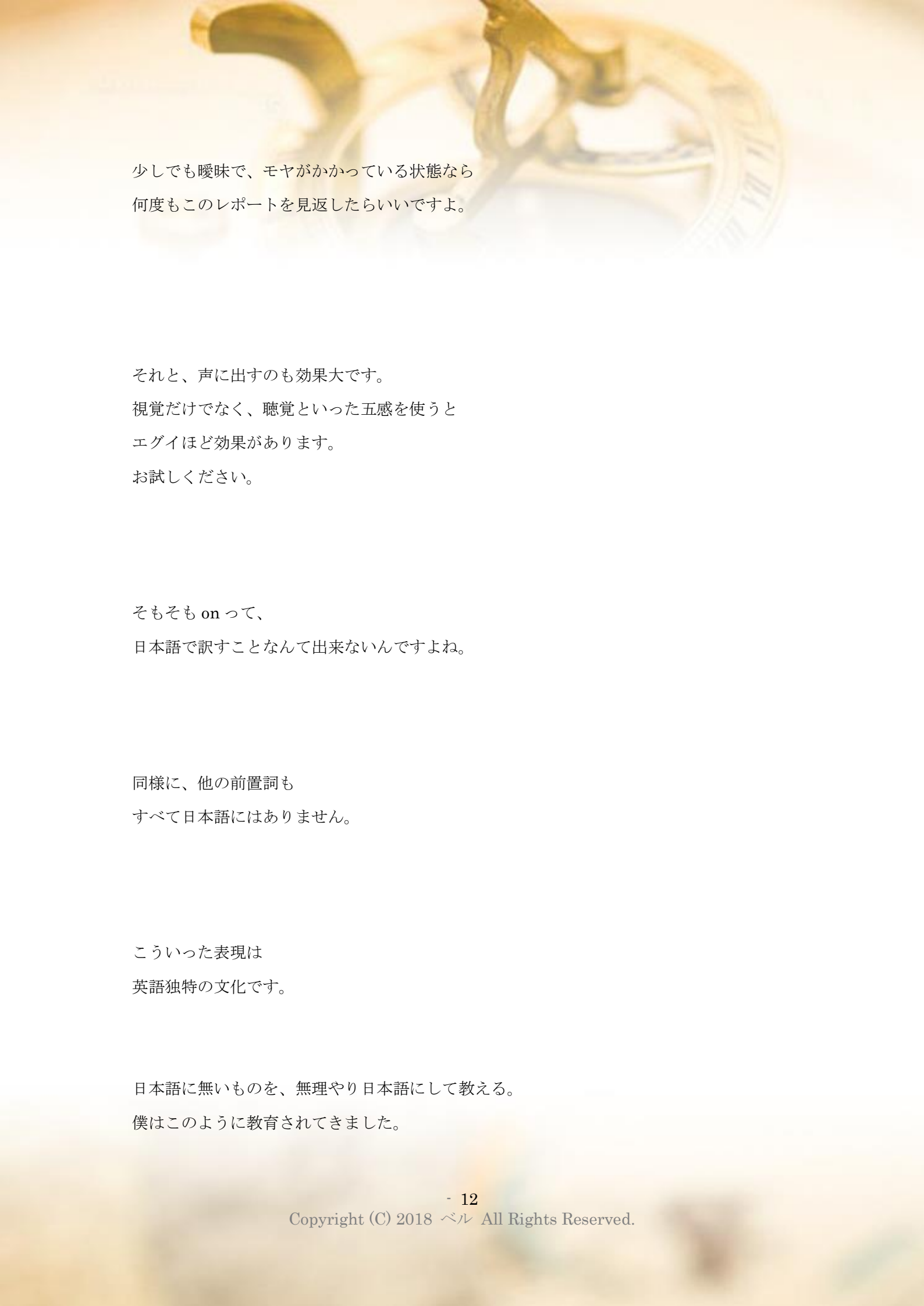
僕は、元から英語が  
すこぶる得意だったわけではありません。

しかし、コアミーニングで英語を考え、  
捉えるようになったらスッと頭に  
入ってくるようになりました。

その結果 TOEIC の得点アップにも繋がりました。  
この考え方を友達にも教えたところ、  
彼は 400 以下から 750 ほど取っていました。  
300 点アップですね (笑)

勉強法次第で、TOEIC の点数は大きく変わってきます。  
まさに、効果ありすぎて味を占めます (笑)

このレポートを何度も読んで、  
on は完璧にしてください。



少しでも曖昧で、モヤがかかっている状態なら  
何度もこのレポートを見返したらいいですよ。

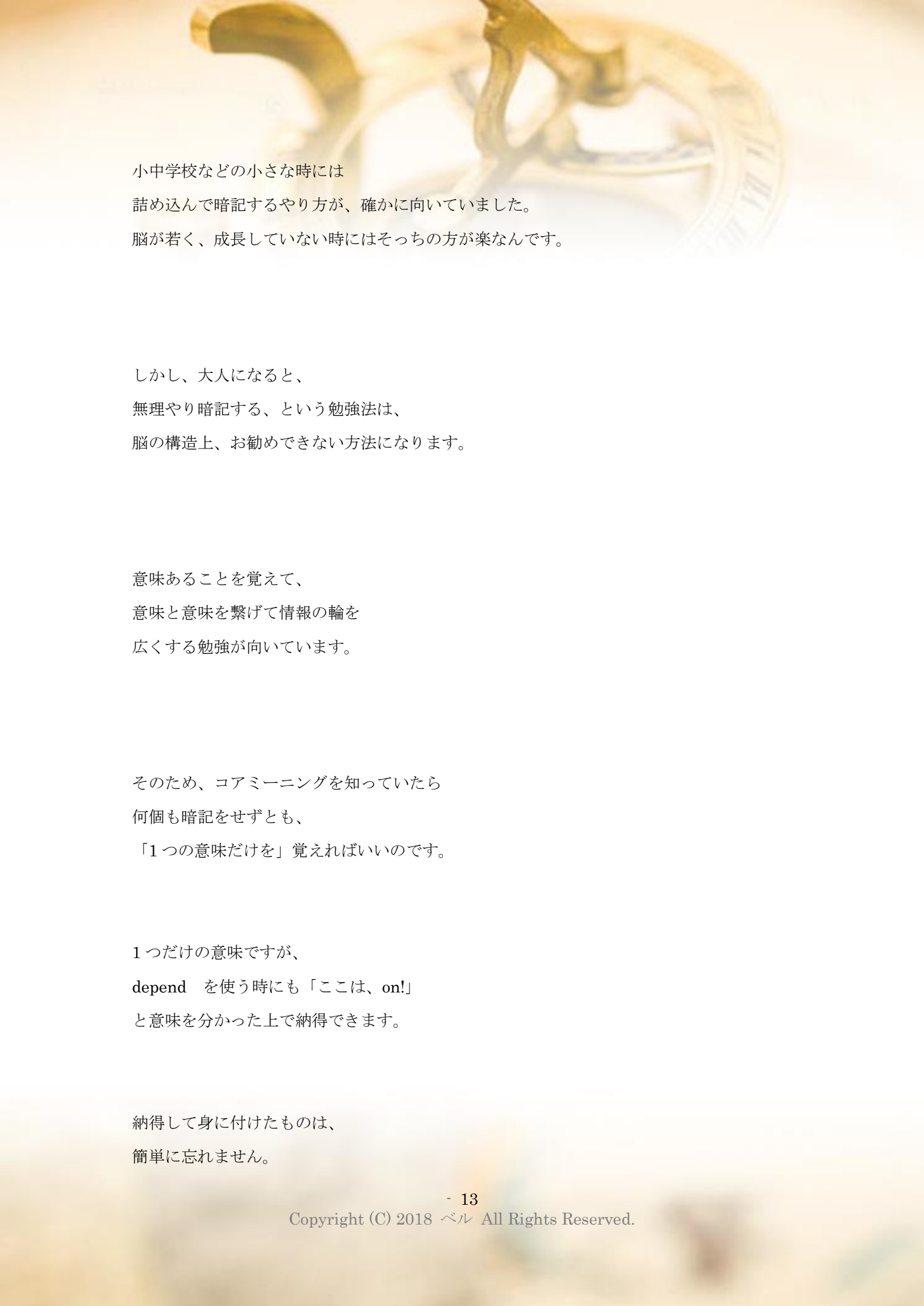
それと、声に出すのも効果大です。  
視覚だけでなく、聴覚といった五感を使うと  
エグイほど効果があります。  
お試しください。

そもそも on って、  
日本語で訳すことなんて出来ないんですよね。

同様に、他の前置詞も  
すべて日本語にはありません。

こういった表現は  
英語独特の文化です。

日本語に無いものを、無理やり日本語にして教える。  
僕はこのように教育されてきました。



小中学校などの小さな時には  
詰め込んで暗記するやり方が、確かに向いていました。  
脳が若く、成長していない時にはそっちの方が楽なんです。

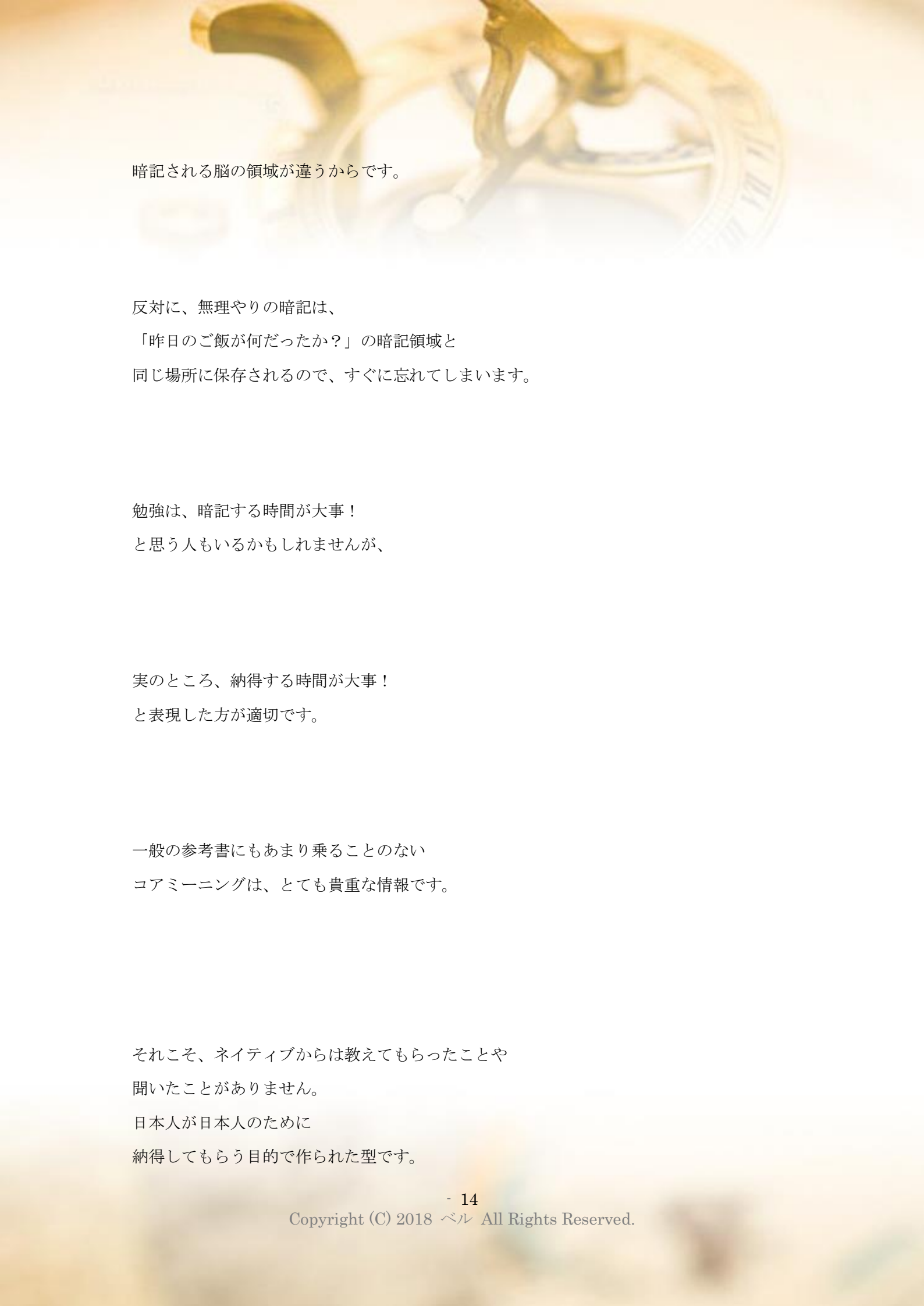
しかし、大人になると、  
無理やり暗記する、という勉強法は、  
脳の構造上、お勧めできない方法になります。

意味あることを覚えて、  
意味と意味を繋げて情報の輪を  
広くする勉強が向いています。

そのため、コアミーニングを知っていたら  
何個も暗記をせずとも、  
「1つの意味だけを」覚えればいいのです。

1つだけの意味ですが、  
depend を使う時にも「ここは、on!」  
と意味を分かった上で納得できます。

納得して身に付けたものは、  
簡単に忘れません。



暗記される脳の領域が違うからです。

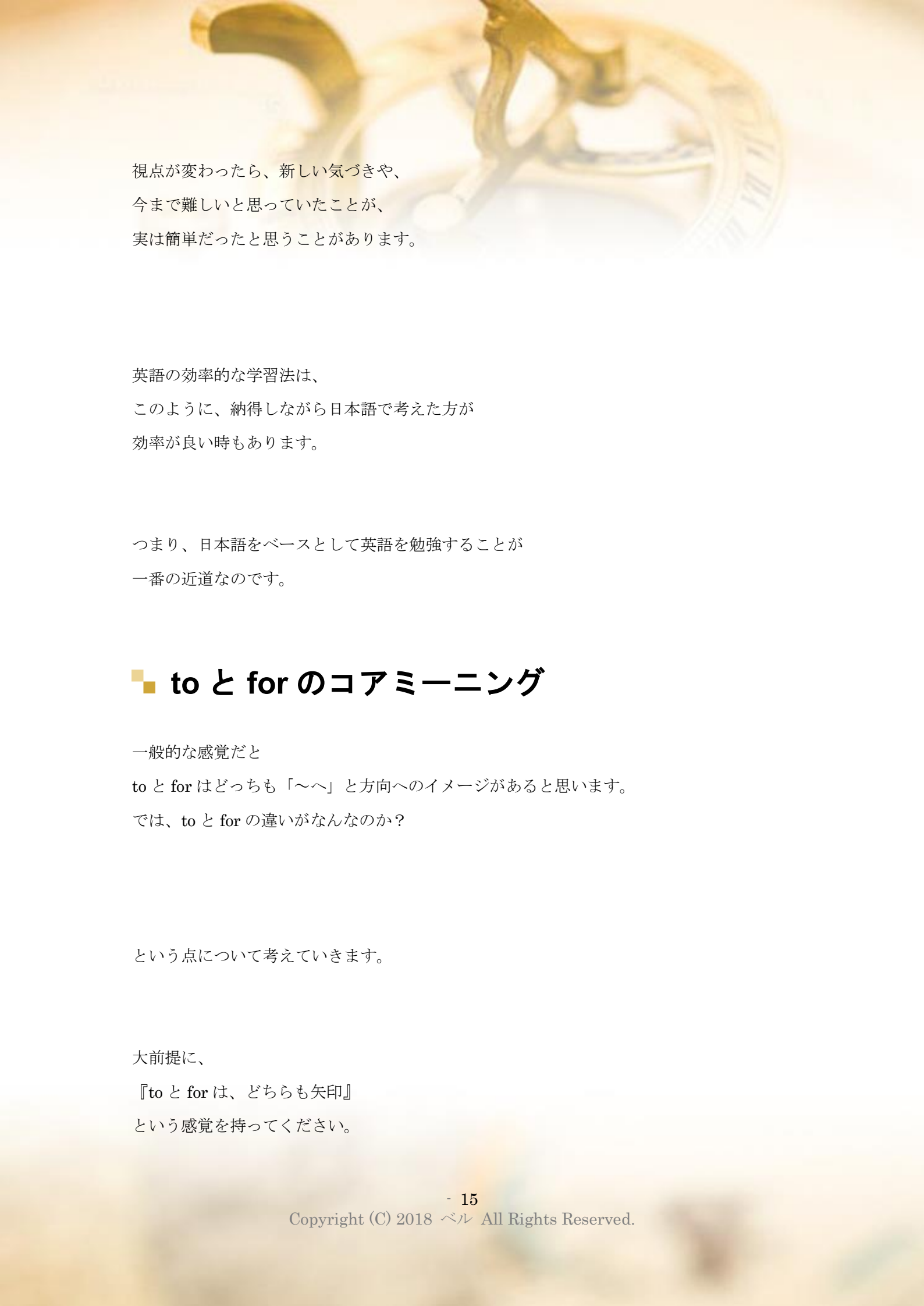
反対に、無理やりの暗記は、  
「昨日のご飯が何だったか？」の暗記領域と  
同じ場所に保存されるので、すぐに忘れてしまいます。

勉強は、暗記する時間が大事！  
と思う人もいるかもしれませんが、

実のところ、納得する時間が大事！  
と表現した方が適切です。

一般の参考書にもあまり乗ることのない  
コアミーニングは、とても貴重な情報です。

それこそ、ネイティブからは教えてもらったことや  
聞いたことがありません。  
日本人が日本人のために  
納得してもらう目的で作られた型です。



視点が変わったら、新しい気づきや、  
今まで難しいと思っていたことが、  
実は簡単だったと思うことがあります。

英語の効率的な学習法は、  
このように、納得しながら日本語で考えた方が  
効率が良い時もあります。

つまり、日本語をベースとして英語を勉強することが  
一番の近道なのです。

## ■ to と for のコアミーニング

一般的な感覚だと

to と for はどちらも「～へ」と方向へのイメージがあると思います。

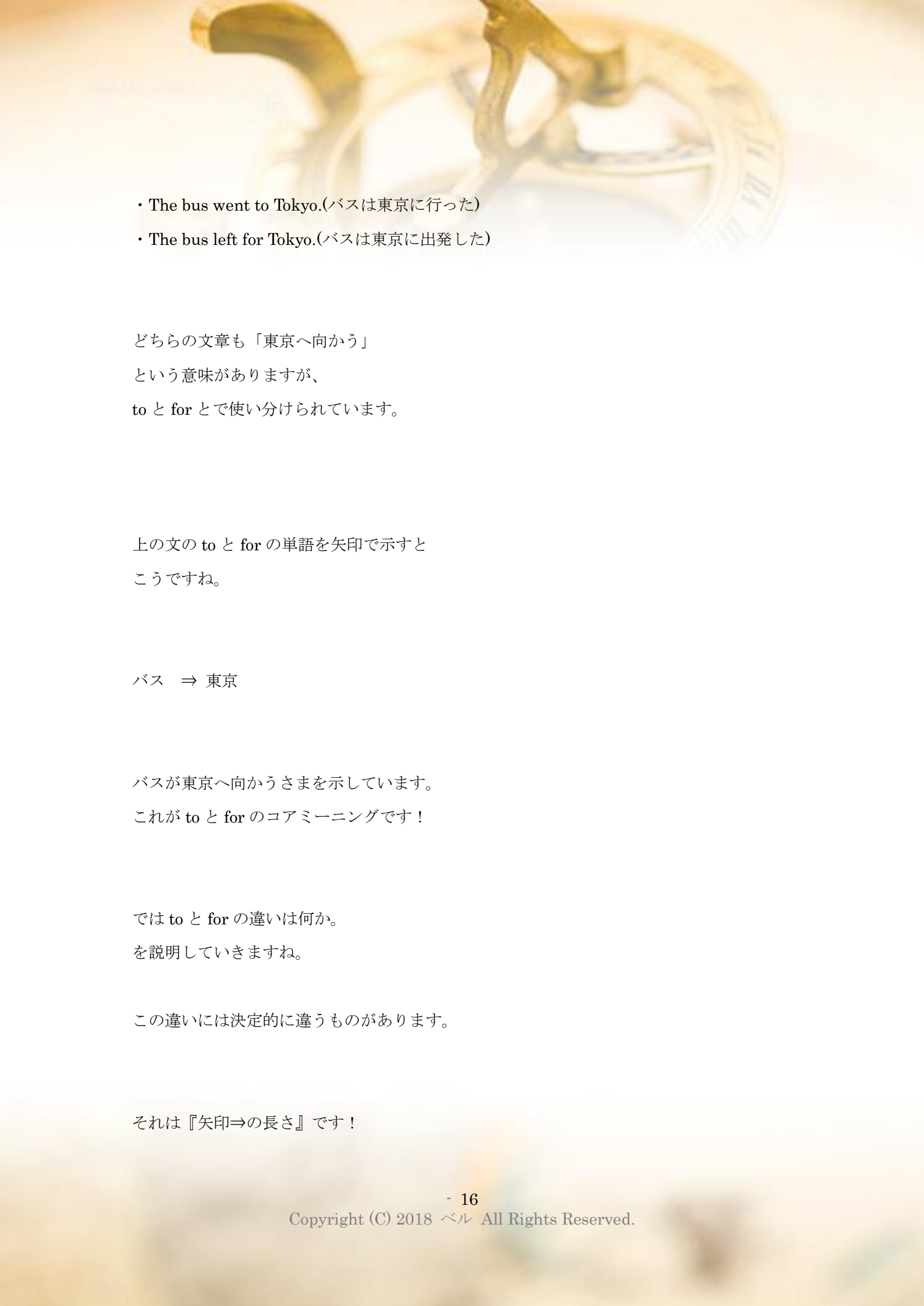
では、to と for の違いがなんなのか？

という点について考えていきます。

大前提に、

『to と for は、どちらも矢印』

という感覚を持ってください。

- 
- The bus went to Tokyo.(バスは東京に行った)
  - The bus left for Tokyo.(バスは東京に出発した)

どちらの文章も「東京へ向かう」  
という意味がありますが、  
to と for とで使い分けられています。

上の文の to と for の単語を矢印で示すと  
こうですね。

バス ⇒ 東京

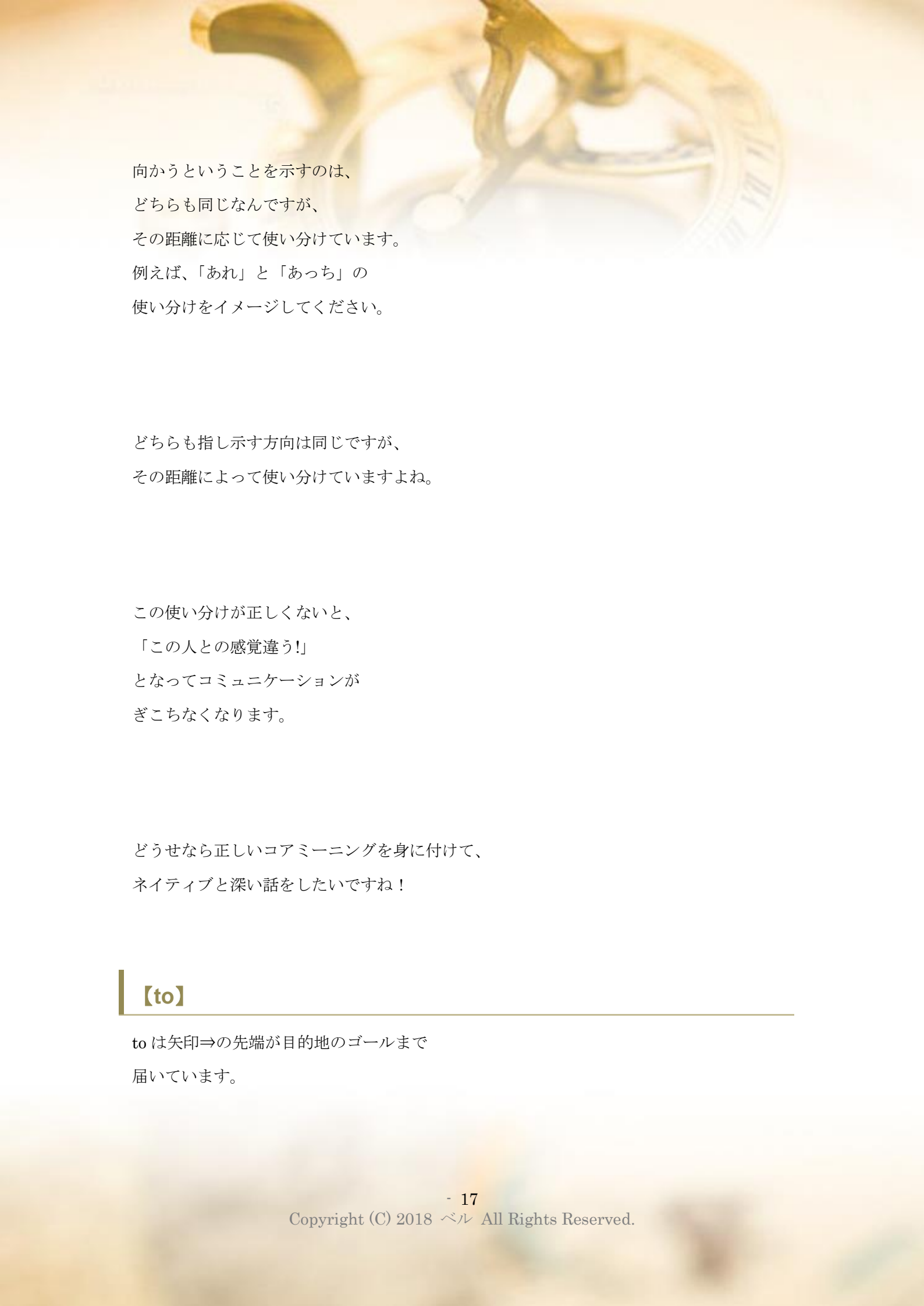
バスが東京へ向かうさまを示しています。  
これが to と for のコアミーニングです！

では to と for の違いは何か。  
を説明していきますね。

この違いには決定的に違うものがあります。

それは『矢印⇒の長さ』です！





向かうということを示すのは、  
どちらも同じなのですが、  
その距離に応じて使い分けています。  
例えば、「あれ」と「あっち」の  
使い分けをイメージしてください。

どちらも指し示す方向は同じですが、  
その距離によって使い分けていますよね。

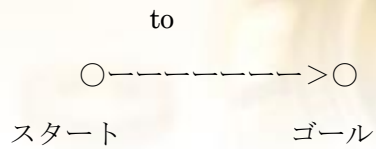
この使い分けが正しくないと、  
「この人との感覚違う!」  
となってコミュニケーションが  
ぎこちなくなります。

どうせなら正しいコアミーニングを身に付けて、  
ネイティブと深い話をしたいですね！

## 【to】

---

to は矢印⇒の先端が目的地のゴールまで  
届いています。



これが to の長さです。

The bus went to Tokyo.(バスは東京に行った)

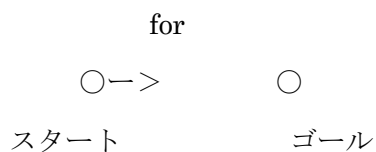
The bus went ⇒ Tokyo.


「東京に行った」ということは  
バスは東京に着いていることが分かります。

なので went の後は for ではなく、to なのです。

## 【for】

一方、  
for は矢印⇒の先端がゴールに届いていません。  
その方向を指し示しているだけです。





The bus left for Tokyo.(バスは東京に出発した)

The bus left ⇒ Tokyo.

「東京に出発した」ということは  
バスが東京に向かって旅立っただけです。

東京に着いているかどうかは分かりません。

つまり to ではなく、for のイメージです。  
なので left の後は to ではなく、for なのです。

このコアミーニングが掴めれば、  
以下のような丸暗記をしなくても大丈夫ですね。

根本的なところを押さえれば

■to を取る動詞

give, show, teach, tell など

■for をとる動詞

buy, cook, make, など



## Example give

例えば give(あげる)だと

I gave it to her.(彼女にそれをあげた)

「あげる」っていう行動は  
それを受け取る人がいないと出来ません。  
つまり、ゴールに届いた動作です。

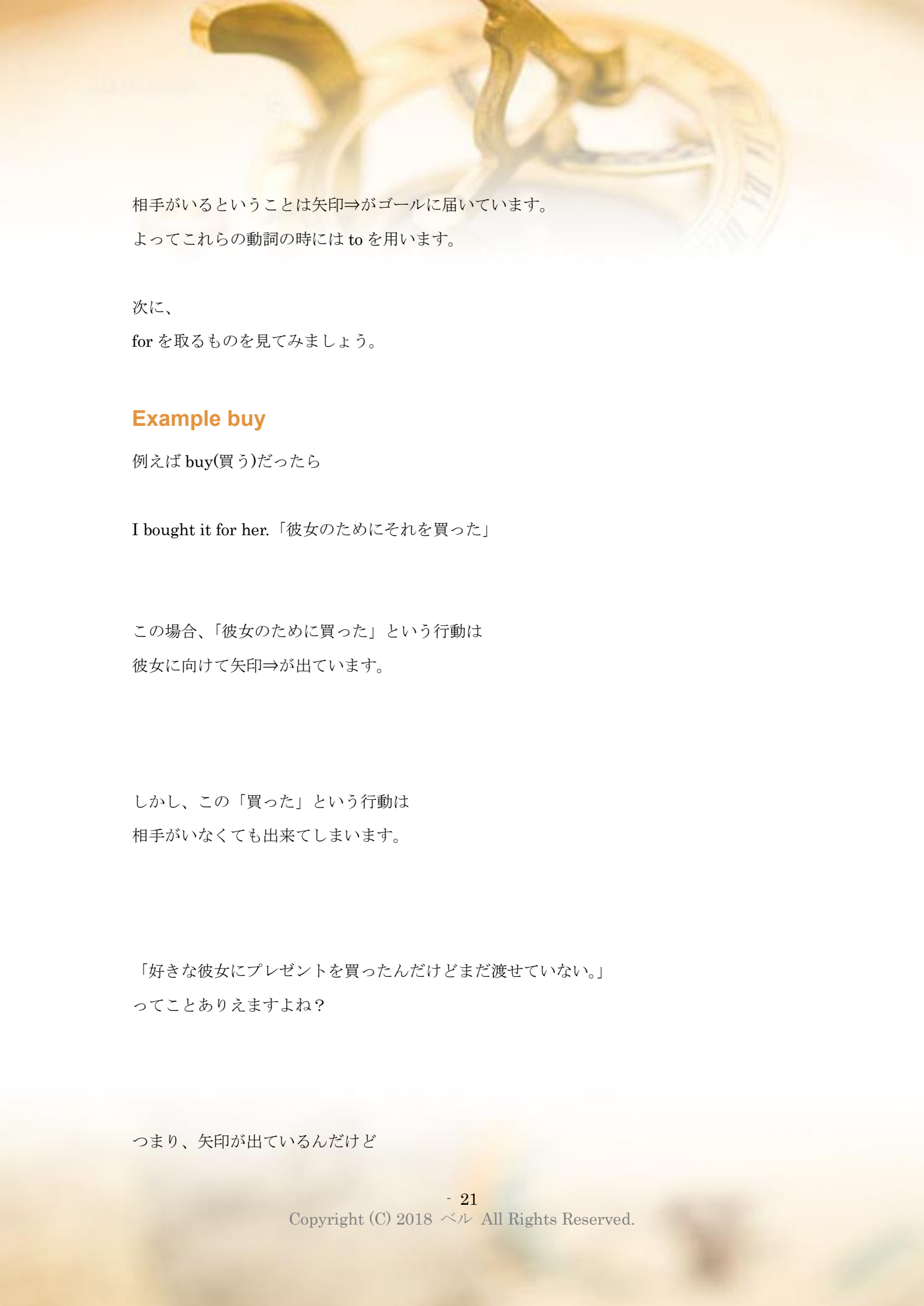
そのため矢印⇒がゴールに届いています。  
だから give の時は for ではなく、  
「to」 でないといけないことが分かります。

show(見せる), teach(教える), tell(伝える)などは全て  
相手がいないと出来ない行動です。

I showed it to her. (彼女にそれを見せた)

I taught it to her. (彼女にそれを教えた)

I told it to her. (彼女にそれを伝えた)



相手がいるということは矢印⇒がゴールに届いています。

よってこれらの動詞の時には to を用います。

次に、

for を取るものを見てみましょう。

## Example buy

例えば buy(買う)だったら

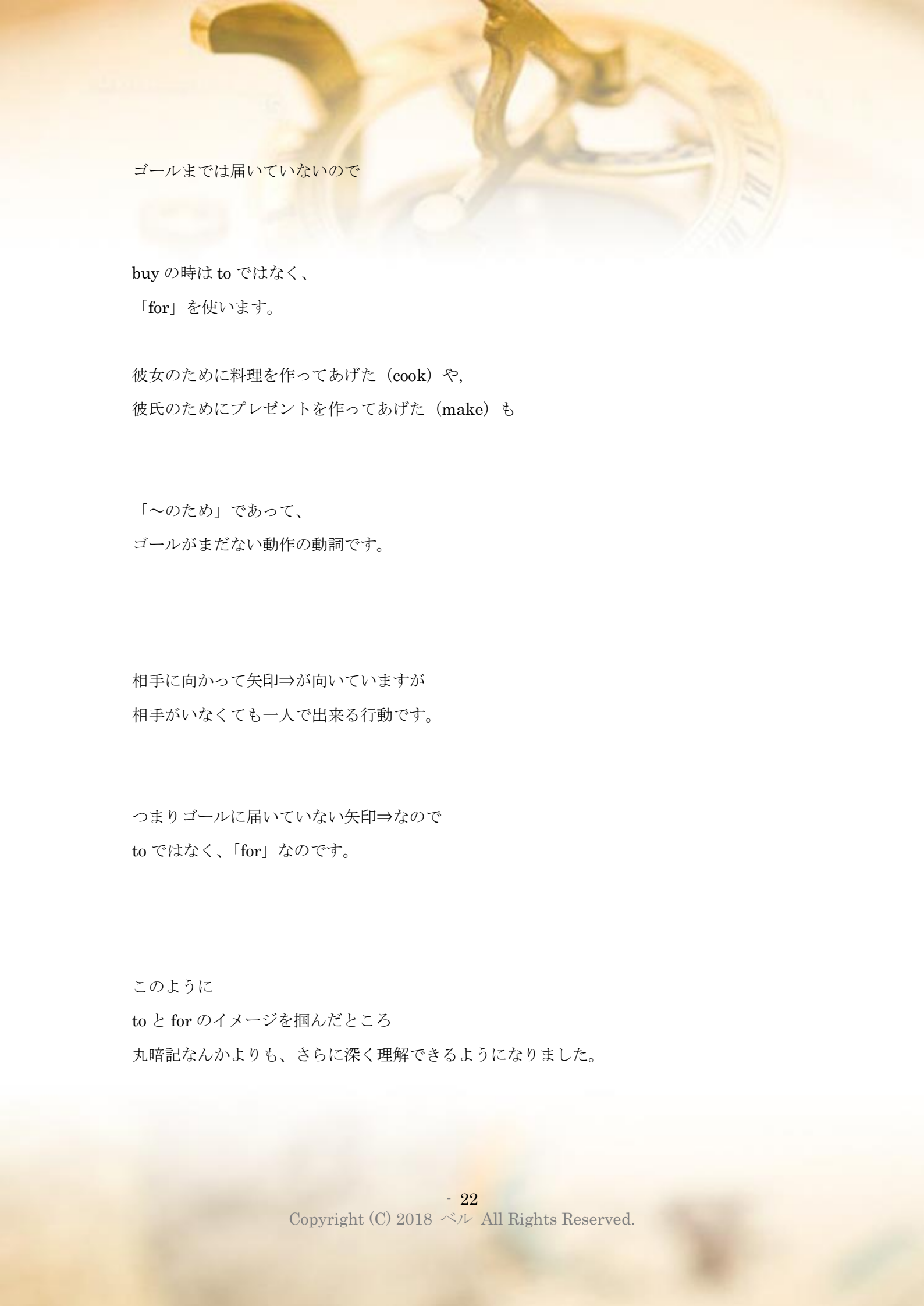
I bought it for her. 「彼女のためにそれを買った」

この場合、「彼女のために買った」という行動は彼女に向けて矢印⇒が出ています。

しかし、この「買った」という行動は相手がいなくても出来てしまいます。

「好きな彼女にプレゼントを買ったんだけどまだ渡せていない。」  
ってことありえますよね？

つまり、矢印が出ているんだけど



ゴールまでは届いていないので

buy の時は to ではなく、  
「for」を使います。

彼女のために料理を作ってあげた (cook) や、  
彼氏のためにプレゼントを作ってあげた (make) も

「~のため」であって、  
ゴールがまだない動作の動詞です。

相手に向かって矢印⇒が向いていますが  
相手がいなくても一人で出来る行動です。

つまりゴールに届いていない矢印⇒なので  
to ではなく、「for」なのです。

このように  
to と for のイメージを掴んだところ  
丸暗記なんかよりも、さらに深く理解できるようになりました。



## Example look

例えば

look for ～「～を探す」だったら

look（見る）方向⇒がゴールに届いていない！

だから「～を探す」っていう意味なんだ！

っていう具合に

日本語から英語の意味を掴めるし、

英語から日本語の意味を推測することができます。

矢印の長さを意識して

これからは to と for を見るようにしてください！

## ■ 過去形の本当の意味とは？

動詞が過去形であっても、  
過去の意味でない時の説明をしたいと思います。

一般的な常識として  
『過去形を示すときには過去を使う』  
ことに何ら異論はないと思います。

しかし、こんな表現をする時に  
過去形なのに、なぜ現在系なの!?  
と思ったことがあります。

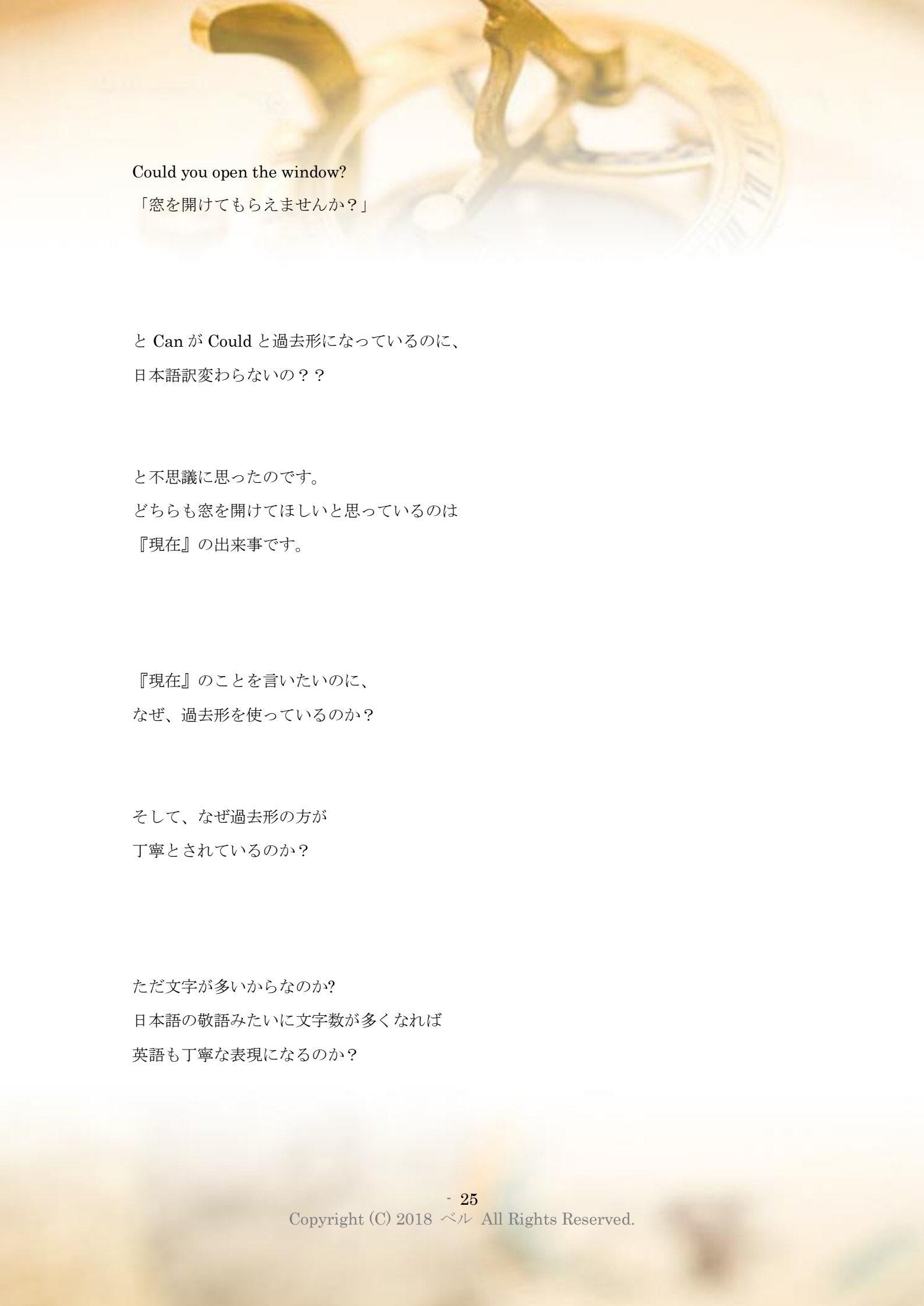
例えば

Can you open the window?

「窓、開けてくれない？」

これを丁寧な言い方にしたい場合は、  
can を過去形の could にして





Could you open the window?

「窓を開けてもらえませんか？」


と Can が Could と過去形になっているのに、  
日本語訳変わらないの??

と不思議に思ったのです。  
どちらも窓を開けてほしいと思っているのは  
『現在』の出来事です。

『現在』のことを言いたいのに、  
なぜ、過去形を使っているのか？

そして、なぜ過去形の方が  
丁寧とされているのか？

ただ文字が多いからなのか？  
日本語の敬語みたいに文字数が多くなれば  
英語も丁寧な表現になるのか？



いや、待てよ、  
英語ってそもそも話すときに  
上下関係あまり気にしていなそうだけど・・・。

だって、海外ドラマを観ていても、  
会社の上司に向かってフレンドーに接していたような・・・。

とも思いましたが、  
「文字数が単に多いから」  
という理由だけではなかったんです。


## ズバリ過去形とは？

---

では、なぜ過去形を使っていたのか？

それは、  
過去形にすると『距離感をだせる』からです。

どういうことかという、  
ネイティブスピーカーにとって、過去形とは、  
単に過去を表すものではありません。



彼らにとって、  
過去形＝【距離感を表す形】  
なのです。

## 距離感

---

時間的な距離を感じていたら  
『過去』になる。

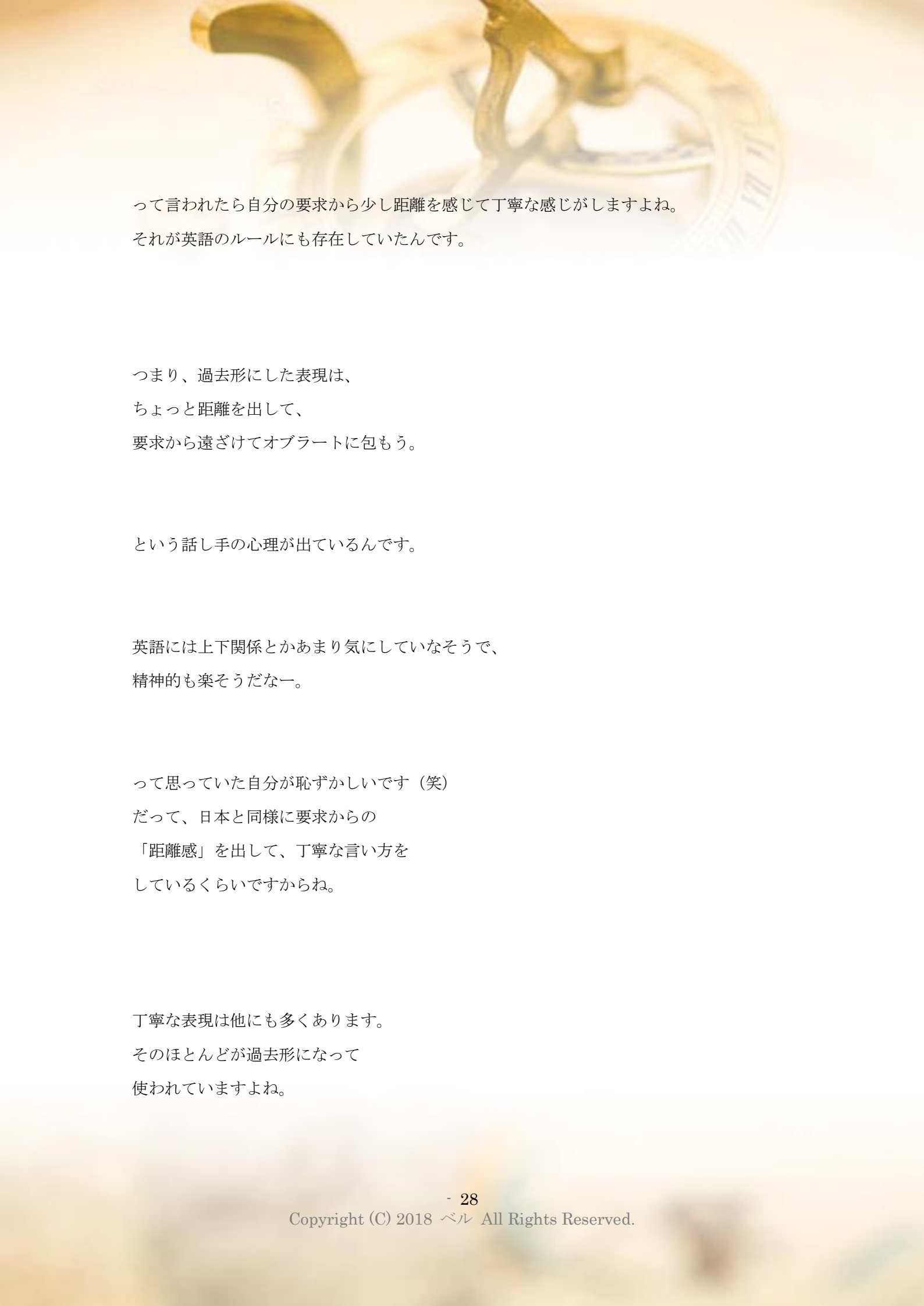
精神的な距離を感じていたら  
『丁寧』な表現になる。

ということでした。

してほしいことをストレートに  
言われるとなんだか嫌ですよ（笑）

たとえば、  
「これコピーして。」  
って言われると、少し威圧的なものを感じますが、

「これコピーしてくれると嬉しいな。」



って言われたら自分の要求から少し距離を感じて丁寧な感じがしますよね。  
それが英語のルールにも存在していたんです。

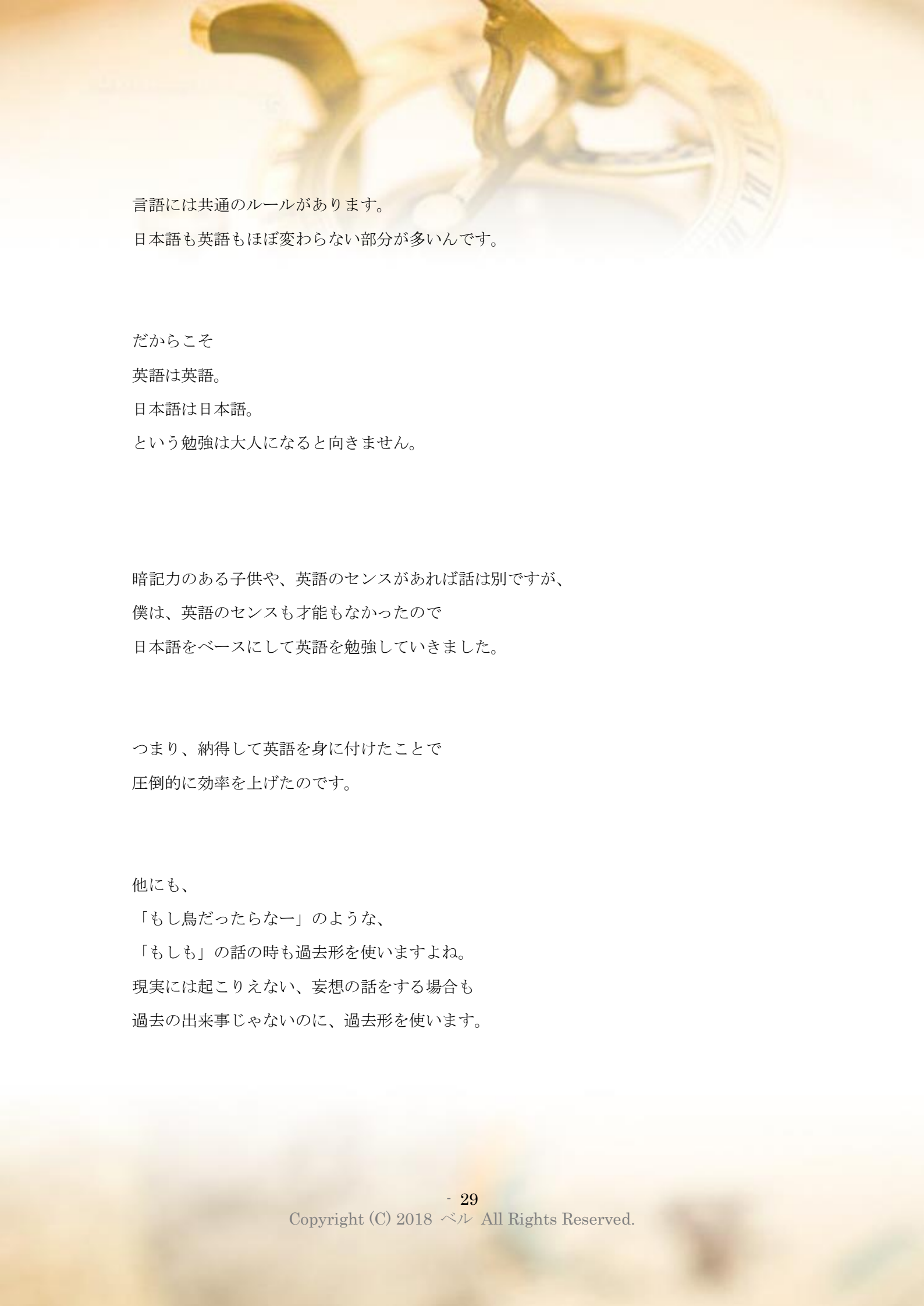
つまり、過去形にした表現は、  
ちょっと距離を出して、  
要求から遠ざけてオブラートに包もう。

という話し手の心理が出ているんです。

英語には上下関係とかあまり気にしていなそうで、  
精神的も楽そうだなー。

って思っていた自分が恥ずかしいです（笑）  
だって、日本と同様に要求からの  
「距離感」を出して、丁寧な言い方を  
しているくらいですからね。

丁寧な表現は他にも多くあります。  
そのほとんどが過去形になって  
使われていますよね。



言語には共通のルールがあります。

日本語も英語もほぼ変わらない部分が多いんです。

だからこそ

英語は英語。

日本語は日本語。

という勉強は大人になると向きません。

暗記力のある子供や、英語のセンスがあれば話は別ですが、

僕は、英語のセンスも才能もなかったので

日本語をベースにして英語を勉強していきました。

つまり、納得して英語を身に付けたことで

圧倒的に効率を上げたのです。

他にも、

「もし鳥だったらなー」のような、

「もしも」の話の時も過去形を使いますよね。

現実には起こりえない、妄想の話をする場合も

過去の出来事じゃないのに、過去形を使います。

## 仮定法

この「もしも～だったらなあ」と言いたいときに使う、仮定法というやつです。

僕が習ったときは

「英語は、こーゆルールがあるから」

と暗記一辺倒でしたが、今なら法則が分かります。

そして、ロジックを知ってからは、

間違えることなく、使えるようになりました。

If I were a bird, I would like to fly in the sky.

「もし私が鳥だったら、空を飛びたな一。」

という、「もしも」の文章です。

ここで、私は鳥ではないけど、

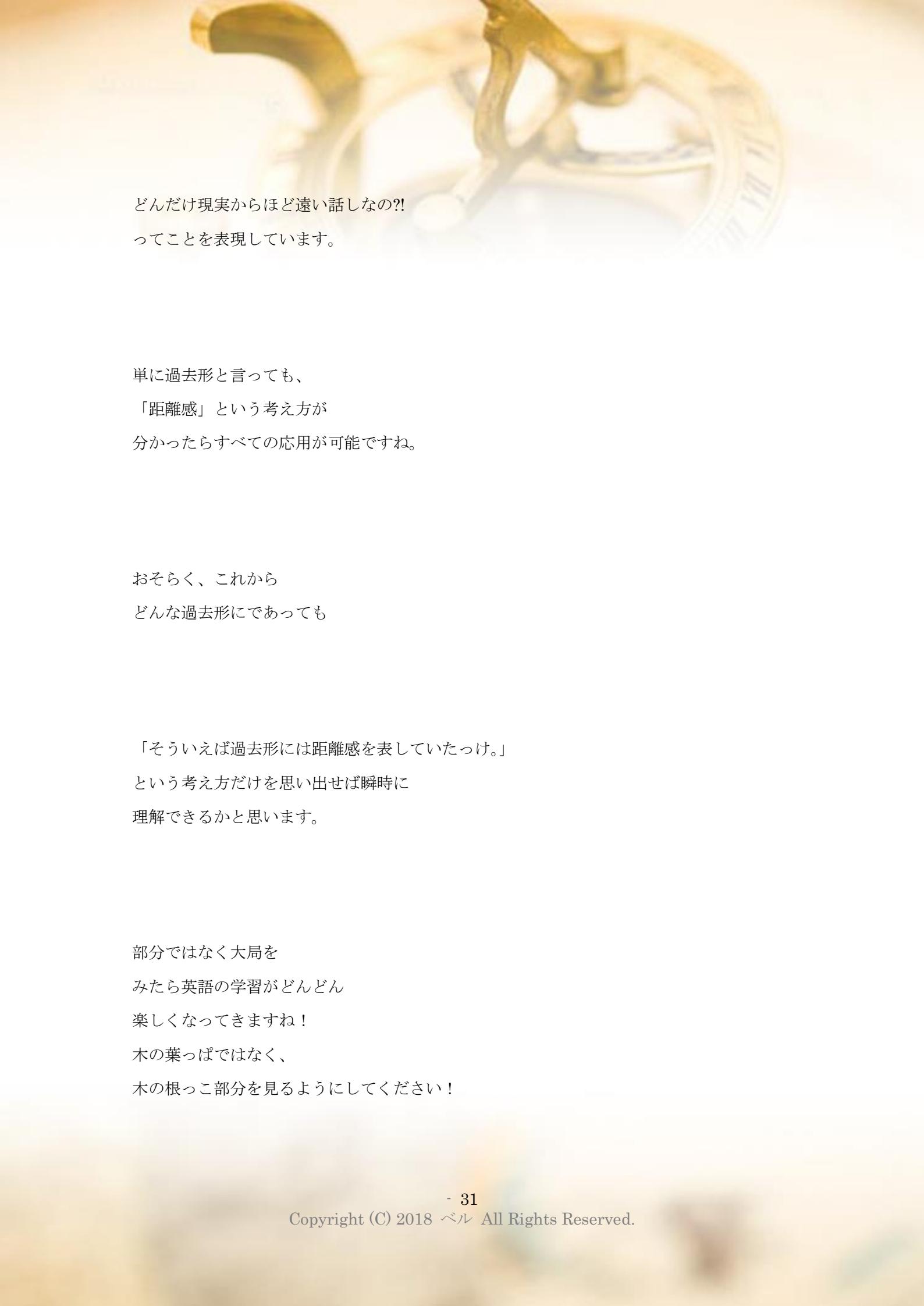
現実からの距離感を出すために、

am→were

となります。

つまり、現在→過去形になっています。

さらに、were は are の過去形ですからね！



どんだけ現実からほど遠い話しなの?!  
ってことを表現しています。

単に過去形と言っても、  
「距離感」という考え方が  
分かったらすべての応用が可能ですね。

おそらく、これから  
どんな過去形にであっても

「そういえば過去形には距離感を表していたっけ。」  
という考え方だけを思い出せば瞬時に  
理解できるかと思います。

部分ではなく大局を  
みたら英語の学習がどんどん  
楽しくなってきますね！  
木の葉っぱではなく、  
木の根っこ部分を見るようにしてください！

## ■ 英語を話す時に必要なたった一つの考え方

英語で一番大切なこと

それは…

英語は『結論から言う言語』なんです！

例えば、こんな文章があります。

He has brothers who live in Hawaii.

結論 < 補足情報 >

brothers < who lives in Hawaii >

兄弟 ハワイに住んでいる

英語を話すときに、話し手の感覚としては、

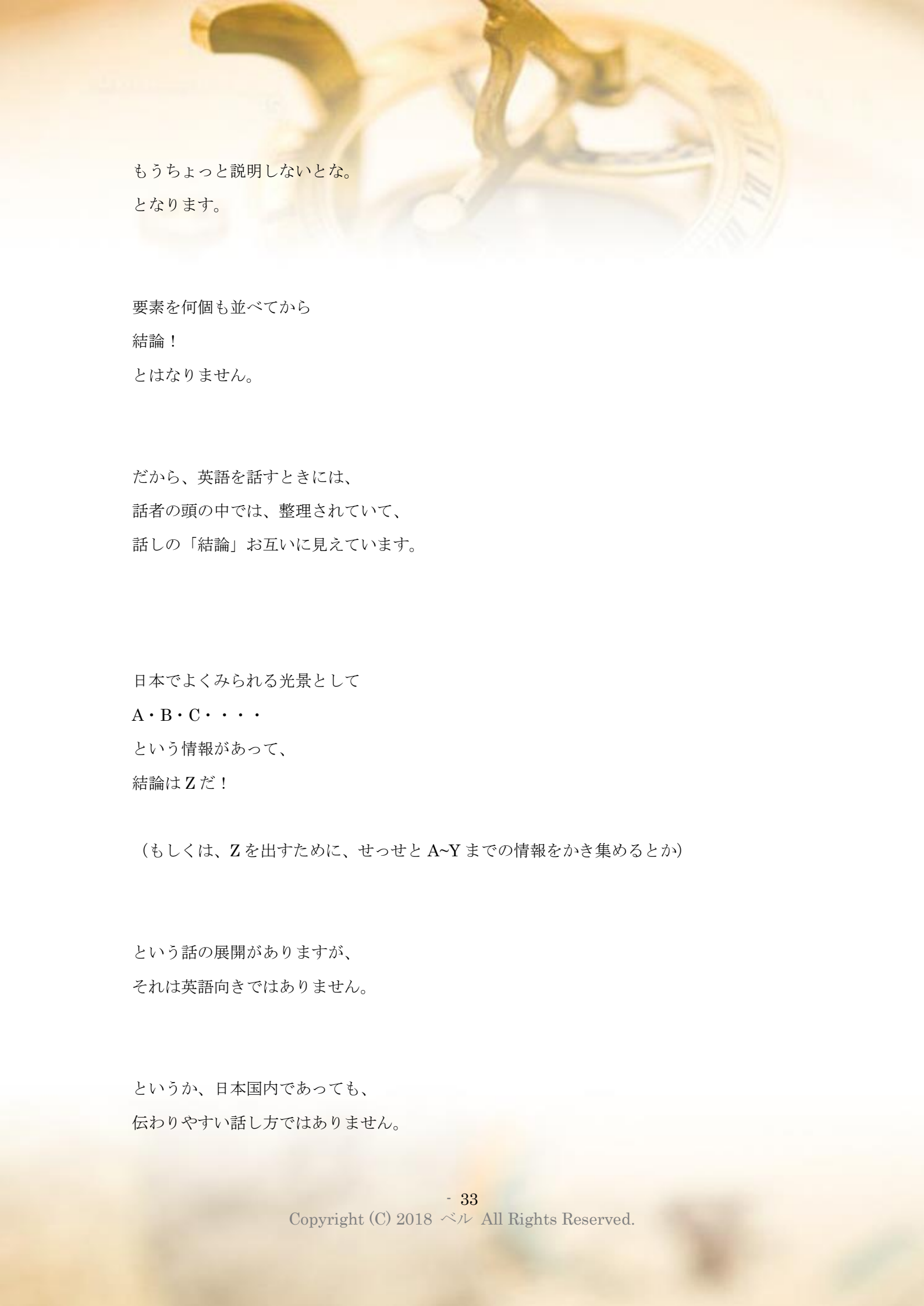
「結論」をポンっと言ってみて、

あっ、足りないな。と思って、

後ろに補足情報を足すという感じです。

だから、基本的には結論を先に言ってから、





もうちょっと説明しないとな。  
となります。

要素を何個も並べてから  
結論！  
とはなりません。

だから、英語を話すときには、  
話者の頭の中では、整理されていて、  
話しの「結論」お互いに見えています。

日本でよくみられる光景として  
A・B・C・・・  
という情報があって、  
結論はZだ！

(もしくは、Zを出すために、せっせとA~Yまでの情報をかき集めるとか)

という話の展開がありますが、  
それは英語向きではありません。

というか、日本国内であっても、  
伝わりやすい話し方ではありません。

## シンプルな結論をドン！

シンプルな結論をドン！  
の方が、お互いにとって気持ちがいいです。

そして、英語でも伝わる文章ができます。

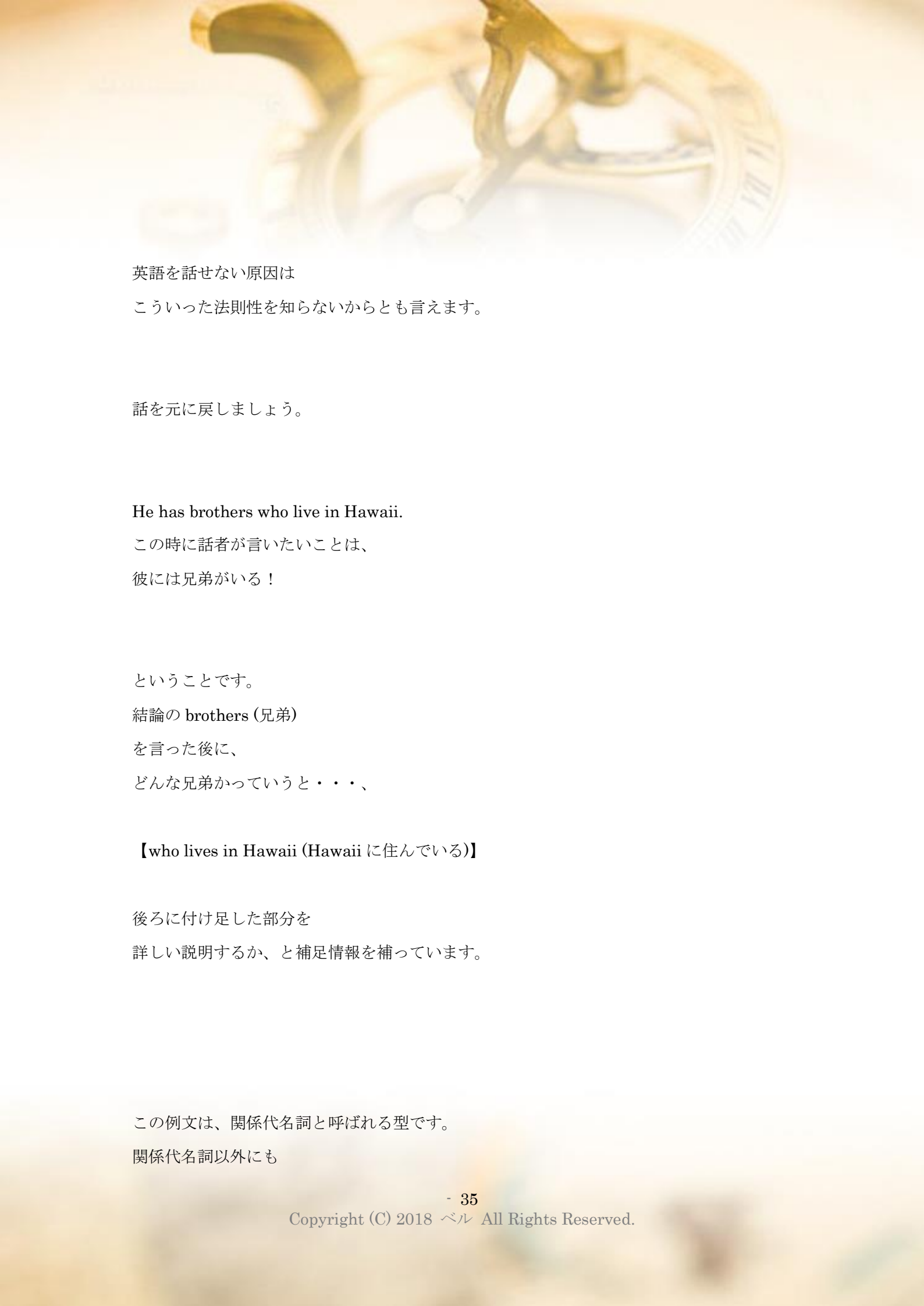
日本でも役に立つし、  
英語を話す時でも役に立つなら  
1石2鳥です。

で、シンプルに結論から話す。  
この考え方こそ、最も重要なのです。

英語との感覚の穴を埋めるために  
住所を例にして考えてみましょう。

日本の住所は～県から始まって、…番地で終わります。  
しかし、英語は…番地から始まって、～県（州）で終わります。

この様に日本と英語の感覚は  
真反対なので、英語に対する考え方にチューニングする必要があります。



英語を話せない原因は  
こういった法則性を知らないからとも言えます。

話を元に戻しましょう。

**He has brothers who live in Hawaii.**

この時に話者が言いたいことは、  
彼には兄弟がいる！

ということです。

結論の **brothers** (兄弟)

を言った後に、

どんな兄弟かっていうと・・・、


**【who lives in Hawaii (Hawaii に住んでいる)】**

後ろに付け足した部分を

詳しい説明するか、と補足情報を補っています。

この例文は、関係代名詞と呼ばれる型です。

関係代名詞以外にも



英語の至る所で『結論ドン!』が使われています。

他の例も見てください！

## 例題

①～⑤のどこが『結論』と『補足情報』でしょう？  
考えてみて下さい。

- ① a shop in Tokyo
- ② the girl wearing a cap
- ③ clock made in Italy
- ④ homework to do by next class
- ⑤ a shirt I bought yesterday

どうでしょうか？



では

結論と補足情報を確認して下さい！

結論 < 補足情報 >

① a shop < in Tokyo >

お店 < 東京にある >

② the girl < wearing a cap >

女の子 < キャップをかぶっている >

③ clock < made in Italy >

時計 < イタリア製の >

④ homework < to do by next class >

宿題 < やらなきゃいけない 次の授業までに >

⑤ a shirt < I bought yesterday >


シャツ < 私が買った 昨日 >

①～⑤を文法的な解説をすると、

① は、前置詞句

② は、現在分詞

③ は、過去分詞

- 
- ④ は、不定詞の形容詞的用法  
⑤ は、関係代名詞の省略です。

まあ、文法の名前とかは、  
正直覚えなくても大丈夫です（笑）

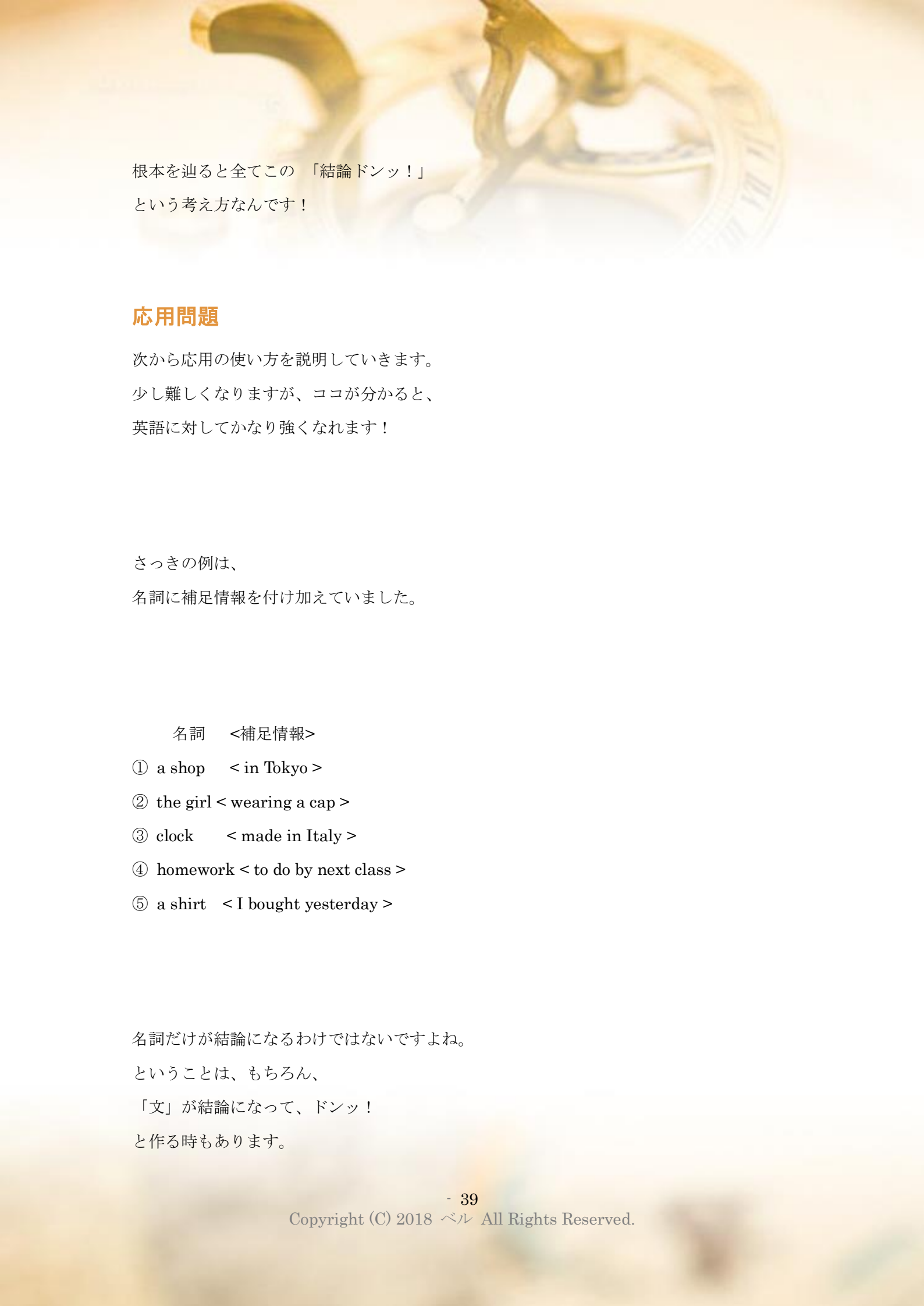
大切なのは、文の型と  
その法則性です。

①～⑤まで、  
一見すると全然違う文法項目として  
一般的には扱われていますが、

全て共通して、  
何か結論をドンッって言ってから、  
「結論だけだと、説明不足だから  
後ろに、補足で説明しとこう！」

といった考え方です。

その考えをもとにした文法が  
関係代名詞や現在分詞、過去分詞、不定詞、前置詞句…などなど、  
色々な用法に分かれただけで、



根本を辿ると全てこの「結論ドンッ！」  
という考え方なんです！

## 応用問題

次から応用の使い方を説明していきます。  
少し難しくなりますが、ココが分かると、  
英語に対してかなり強くなれます！

さっきの例は、  
名詞に補足情報を付け加えていました。

名詞 <補足情報>


- ① a shop < in Tokyo >
- ② the girl < wearing a cap >
- ③ clock < made in Italy >
- ④ homework < to do by next class >
- ⑤ a shirt < I bought yesterday >

名詞だけが結論になるわけではないですよ。

ということは、もちろん、

「文」が結論になって、ドンッ！

と作る時もあります。



例えば、

I went to Fukuoka to see my friend.

「友人に会いに福岡に行ってきたんだよ」

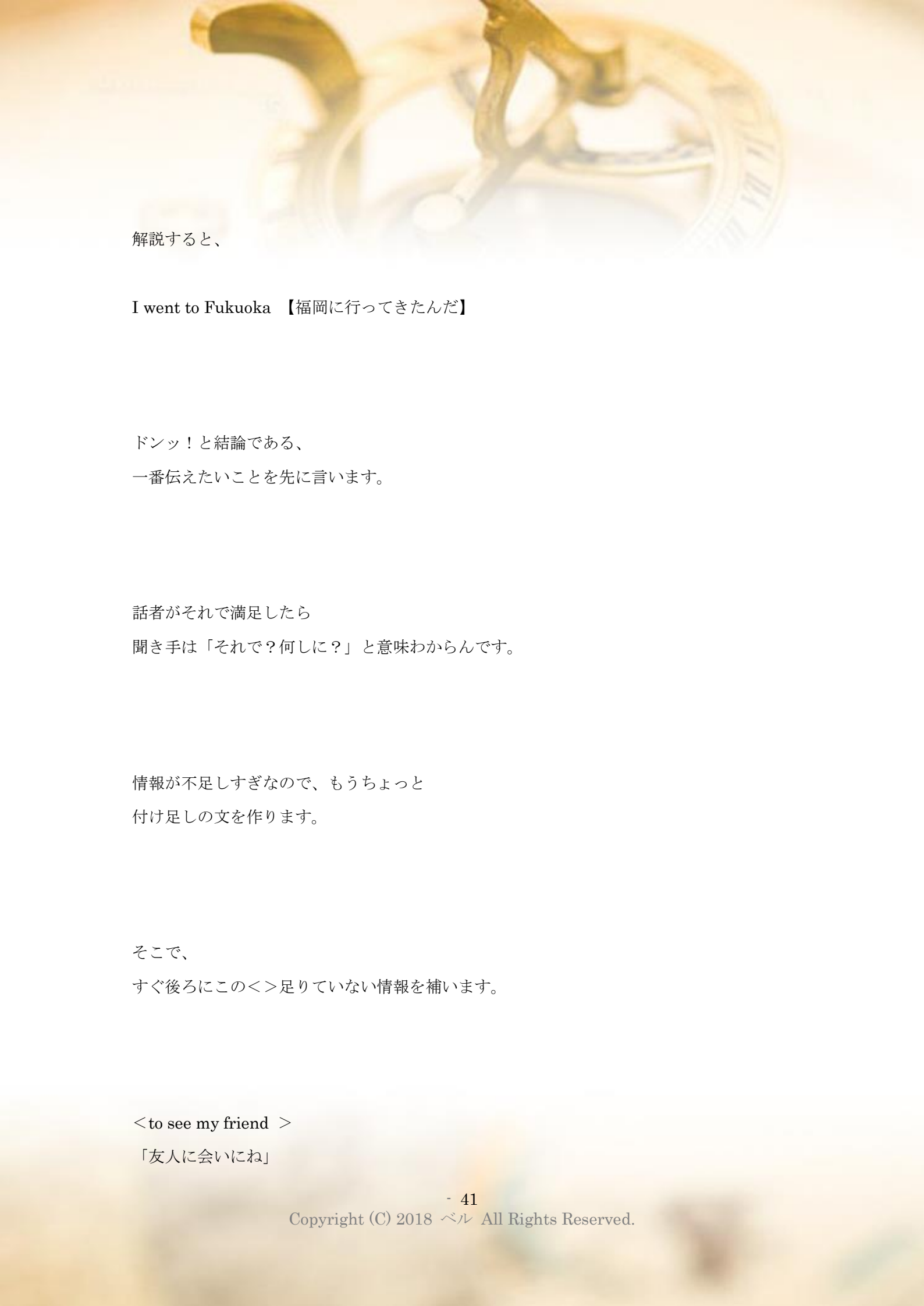
『結論』と<補足情報>に分けるとしたら  
どこでしょうか？

- 
- 
- 

では答えです。

【結論】	< 補足情報 >
【I went to Fukuoka】	< to see my friend >.
【福岡に行ってきたんだ】	< 友人に会いにね >





解説すると、

I went to Fukuoka 【福岡に行ってきたんだ】


ドンッ！と結論である、  
一番伝えたいことを先に言います。

話者がそれで満足したら  
聞き手は「それで？何しに？」と意味わからんです。

情報が不足しすぎなので、もうちょっと  
付け足しの文を作ります。

そこで、  
すぐ後ろにこの<>足りていない情報を補います。

<to see my friend >  
「友人に会いにね」



実はこれが、  
不定詞を使うときのコアミーニングなんです。

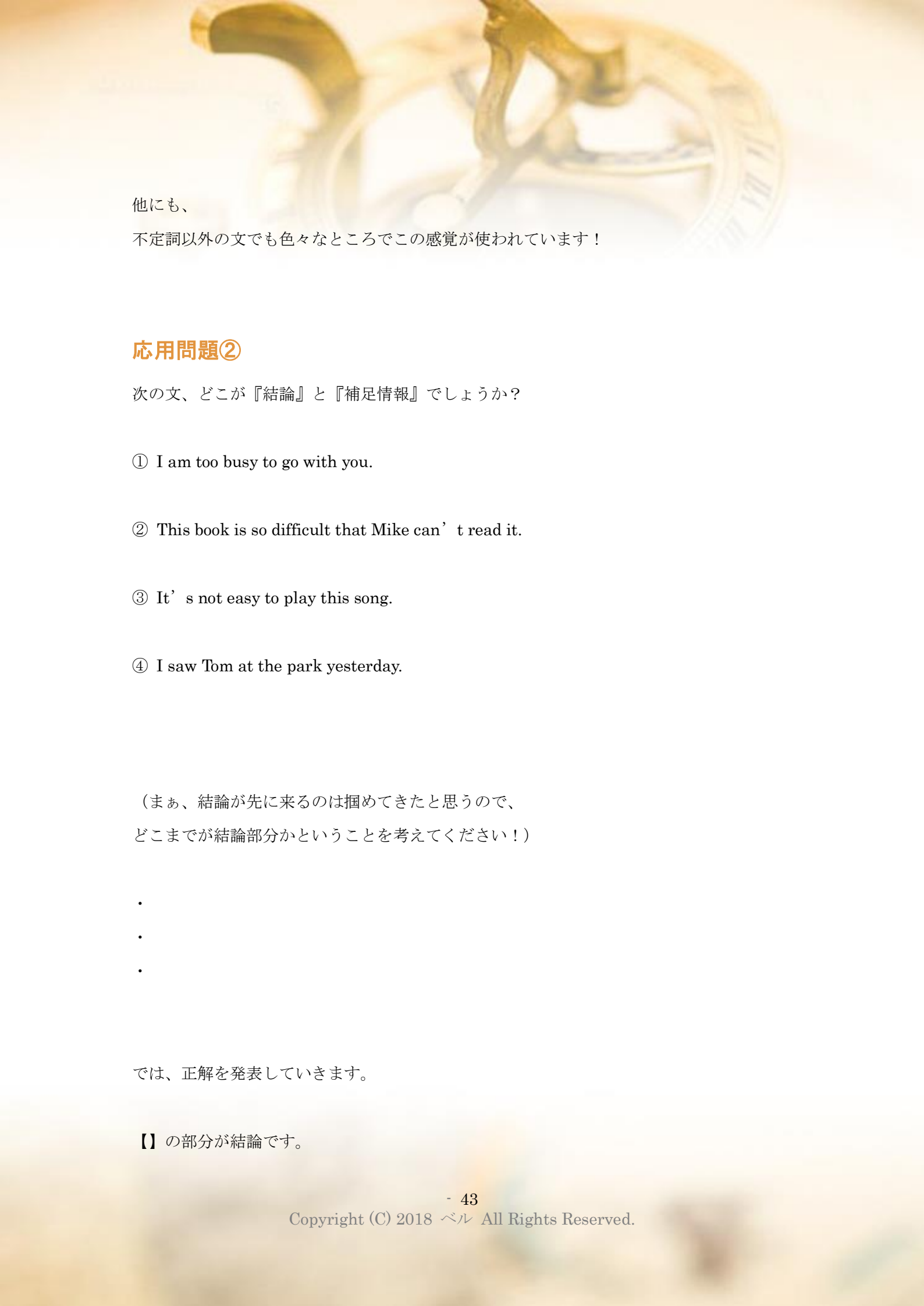
不定詞にもいろんな用法や  
訳仕方があると思いますが、

「補足している」

という考えさえ分かれば、  
多くを暗記するといったことが  
どれだけ無駄か分かります。

なので不定詞って基本的には、  
ただ補っているだけなんです！

結論の補助でしかありません。  
言いたいことは、  
全て結論に含まれています。



他にも、

不定詞以外の文でも色々なところでこの感覚が使われています！

## 応用問題②

次の文、どこが『結論』と『補足情報』でしょうか？

- ① I am too busy to go with you.
- ② This book is so difficult that Mike can't read it.
- ③ It's not easy to play this song.
- ④ I saw Tom at the park yesterday.

(まあ、結論が先に来るのは掴めてきたと思うので、  
どこまでが結論部分かということを考えてください！)

・  
・  
・

では、正解を発表していきます。

【】の部分が結論です。



【結論】 < 補足情報 >

① I am too busy < to go with you >.

忙しすぎるんだ < あなたと一緒に行くには >

② 【This book is so difficult】 < that Mike can' t read it >.

この本はそれほど難しいよ < マイクが読めないくらい >

③ 【It' s not easy】 < to play this song >.

簡単じゃないよ < この曲を演奏するのはね >

④ 【I saw Tom】 < at the park yesterday >.


トムに会ったよ < 公園でね 昨日ね >.

段々と結論を先に言う感覚が  
分かってきたと思います。

で、ここで注目して頂きたいのが、

①～④は、どれもこれも

先に『結論ドンッ!』を言って、



それだけじゃ情報が不十分なので、  
後ろに情報を補足している

という点です。

つまりどの文も全て結論から話しています！

今回は、英語の本当に一番大事な感覚を  
身に付け欲しいということで  
このレポートを作りました。

【結論ドン！】という感覚は  
本当に英語の至る所で使われています。

特に、不定詞や関係詞などは、  
この感覚を持って見ると、  
とても分かりやすくなりますよ。

なので、英語に触れるときは  
「どこがこの文章の結論なのか？」  
を意識して欲しいなと思います。



## ■ 最後に


このレポートで紹介したことを意識するだけで、  
リーディングやリスニングなど、  
インプットする時も英語を英語のまま理解できるし、  
TOEIC の点数も驚くほど点数が上がっていきます。

ライティングもスピーキングなどのアウトプットも、  
結論を先に言うことで簡潔な文章を作れます！

だからこそ、英語を勉強すると、  
「伝える」という能力が非常に身に付きます。

僕は、英語とこの勉強を知って、  
実際に日常で使ったところ、コミュカが格段に上がりました。

だから勉強するコツを掴んだのと同時に  
友達と深い話を出来るようになったし、  
異性と話すときもコツが分かりました。



今まで少なかった知識でも  
効率よく勉強して多くの知識を蓄えることが出来ました。

何よりも、多くなった知識を紹介すると  
他人から認められることが本当に多くなって  
最近、精神的にも充実するようになっていきます。

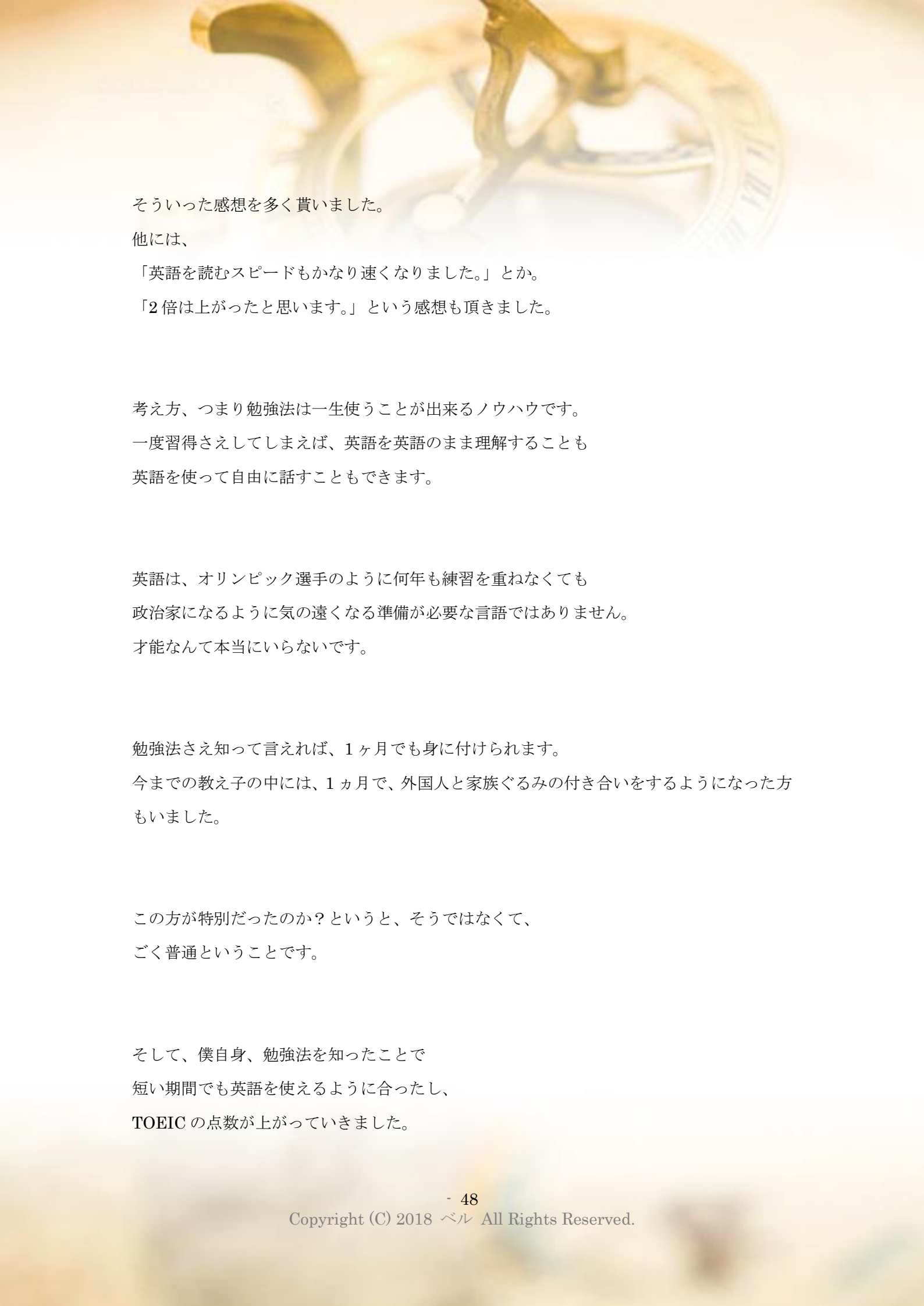
なによりも、英語ってカッコいいですからね。

英語だけを武器にするのではなく、考え方などの、  
勉強していく上で知る知識全てを武器にできたら  
本当に人生が変わります。

人生は一生勉強すること、  
と同時に一生考えることです。

どんな時でも考えなければ前に進めない問題が出てきます。  
英語も型を知って、考えなければ、話すことも難しいです。

しかし、このレポートで紹介した通り、  
コアな部分さえ理解したらあとは、自分で考えてパーツを当てはめるだけで、  
英語は話すことがだいぶ楽になるはずです。



そういった感想を多く貰いました。

他には、

「英語を読むスピードもかなり速くなりました。」とか。

「2倍は上がったと思います。」という感想も頂きました。

考え方、つまり勉強法は一生使うことが出来るノウハウです。

一度習得さえしてしまえば、英語を英語のまま理解することも

英語を使って自由に話すこともできます。

英語は、オリンピック選手のように何年も練習を重ねなくても

政治家になるように気の遠くなる準備が必要な言語ではありません。

才能なんて本当にいらぬです。

勉強法さえ知って言えば、1ヶ月でも身に付けられます。

今までの教え子の中には、1ヵ月で、外国人と家族ぐるみの付き合いをするようになった方もいました。

この方が特別だったのか？というと、そうではなくて、


ごく普通ということです。

そして、僕自身、勉強法を知ったことで

短い期間でも英語を使えるように合ったし、

TOEICの点数が上がっていきました。





その時に意識していたことは、「できる人の猿真似をしていた」ということです。  
猿真似でも、英語の型や法則性さえ知ってしまえば、  
いつの間にか英語を教えることができるレベルにはなれます。

この型と法則性を知って、塾の講師もしていました。  
勉強法を知っていれば別に難しいことはありません。

僕が英語を勉強したキッカケは、英語の点数を上げたかったからではなく、  
英語を使って、世界を知りたいと思ったし、  
カッコ良くなりしたい、自信がほしい、コミュ力が欲しい、友達の輪を広げたい、  
・・・と、ただ欲求のような塊があっただけです。

今では、英語を勉強したことで生活が豊かになったし  
周りに紹介すれば一緒に楽しむことができる。  
その経験から英語は、人生を最高に豊かにする武器になる！  
と自信を持って言います。

そんな人生が劇的に変わる英語をあなたにも手に入れてほしいです。  
そのための勉強法は、メルマガの方でじっくりと解説しています。

◆ベル公式メルマガの登録：<https://bellthrough.com/abc>

◆発行者情報&ブログ：<http://bellthrough.com/>

◆Twitter：<https://twitter.com/bellthrough>

では最後まで読んで頂きありがとうございました。

